

石堂池遺跡

中津市文化財調査報告書第28集

2003

中津市教育委員会



石堂池から南側を望む

例 言

- 一、本書は2000年度（平成12年度）に実施した、県営地域用水環境整備事業、（下池永地区）に伴う発掘調査報告書である。
- 一、調査は大分県中津下毛地方振興局の委託を受け、中津市教育委員会が実施した。
- 一、調査は現場で2000年度実施し、整理作業を2001年度に実施した。
- 一、現場の遺構図、写真撮影は高崎章子（中津市教育委員会）、花崎徹（中津市教育委員会）が行った。
- 一、遺物整理作業は泉幸枝、清永洋美、塩谷絹子、松村たか子、松永理恵、岩本敏美、佐藤智子、穴井美保子が行った。
- 一、遺物の実測、製図、出土遺物観察表は九州文化財リサーチに委託し、一部、花崎、金丸孝子（中津市歴史民俗資料館）が行った。
- 一、遺構の製図は金丸が行い、一部花崎が補足した。
- 一、図面整理は高崎が行い、花崎が補足した。
- 一、空中写真は九州航空株式会社に委託した。
- 一、遺物の写真撮影は花崎が行い、長岡早苗、掛布玲子、岡田由美恵の協力を得た。
- 一、本書の執筆編集は花崎が行った。
- 一、報告書作成にあたり、中野温子（中津市歴史民俗資料館）、金丸の協力を得た。

調査団の構成

調査体制は以下の通りである。

調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 前田 佳毅（中津市教育委員会教育長 平成13年1月31日まで）

於久 孝正（ 同 教育長職務代行者管理課長
平成13年2月1日から同3月31日まで）

武吉 勝也（ 同 教育長 平成13年4月1日から）

調査事務 尾畠 豊彦（ 同 市民文化センター館長）

田中布由彦（ 同 係長）

富田 修司（ 同 主査）

調査担当 高崎 章子（ 同 主査）

花崎 徹（ 同 主任）

現場作業は下記の方々の協力による。（順不同、敬称略）

今永キク子、植山ヨシカ、植山トミ子、植山京子、辛島雅美、黒川みゆき、黒川洋美、山原文子、徳永賀子、松本歎、山縣信夫、若木和美、中村香代子、山中トミ子、花山郁夫、石塔美代子、新山秀勝

目 次

巻頭図版 1

例言

第一章 地理と歴史的環境..... 1

第二章 調査に至る経緯..... 3

第三章 調査の記録..... 4

　1. 調査の概要..... 4

　2. 古代の遺構..... 4

　3. 中世の遺構..... 8

　4. 近世の遺構..... 16

第四章 小 結..... 46

図版 1 ~ 13

挿 図 目 次

1図	中津地方主要遺跡分布図	1
2図	石堂池遺跡周辺図 (1/2,500)	3
3図	石堂池遺跡古代遺構図 (1/500)	4
4図	石堂池遺跡遺構図 (1/400)	5、6
5図	S K-1、S D-2、S H-1図 (1/40)	7
6図	石堂池遺跡中世遺構図 (1/500)	8
7図	S K-2、5図 (1/40)	9
8図	S D-1、3、土界2図 (1/60)	10
9図	S D-1図 (1/60)	11、12
10図	S E-5図 (1/40)	13
11図	S B-1図 (1/40)	14
12図	石堂池遺跡近世遺構図 (1/500)	16
13図	S K-3、4、5、6、7、8、9図 (1/40)	17
14図	S K-11、12、13、14、15、16図 (1/40)	19
15図	S E-2、3図 (1/40)	21
16図	S X-1、2図 (1/40)	22
17図	集石遺構1図 (1/40)	24
18図	集石遺構2図 (1/40)	24
19図	石堂池遺跡出土遺物実測図	26
20図	石堂池遺跡出土遺物実測図	27
21図	石堂池遺跡出土遺物実測図	28
22図	石堂池遺跡出土遺物実測図	29
23図	石堂池遺跡出土遺物実測図	30
24図	石堂池遺跡出土遺物実測図	31
25図	石堂池遺跡出土遺物実測図	32
26図	石堂池遺跡出土遺物実測図	33
27図	石堂池遺跡出土遺物実測図	34
28図	石堂池遺跡出土遺物実測図	35
29図	石堂池遺跡出土遺物実測図	36
30図	石堂池遺跡出土遺物実測図	37
31図	石堂池遺跡出土遺物実測図	38
32図	石堂池遺跡出土遺物実測図	39
33図	石堂池遺跡出土遺物実測図	40
34図	石堂池周辺地図	47、48

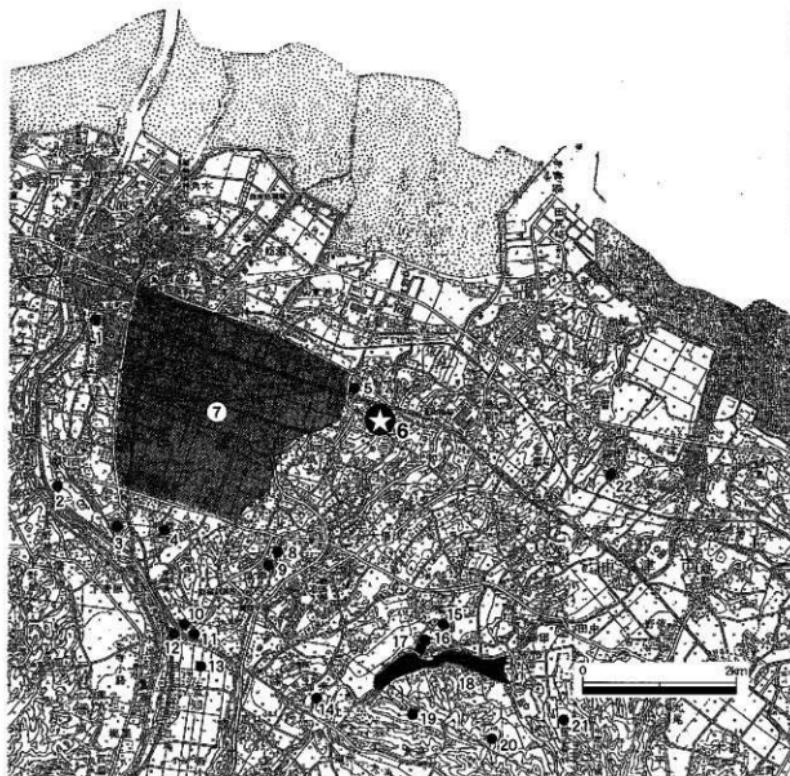
表 目 次

石堂池遺跡、陶磁器、瓦質土器觀察表.....	41、42、43
石堂池遺跡、土器觀察表.....	44
石堂池遺跡、土製品、土人形、石器、墓石、銅錢觀察表.....	45

図 版 目 次

図版 1 1 区発掘前風景	53
発掘風景	
S H - 1	
図版 2 2 区東側から	54
2 区から 3 区を望む	
S D - 1	
図版 3 1 区北側より	55
S D - 3 、 S D - 5 、 S D - 6 、 S D - 1	
S E - 5	
図版 4 土壠 2	56
土壠 2 、 S D - 3	
土壠 2 、 S D - 1	
図版 5 S K - 2	57
S K - 4	
S K - 6	
図版 6 S K - 7	58
S K - 8	
S K - 9	
図版 7 S K - 12	59
S K - 15 、 14 、 13 、 16	
S E - 3	
図版 8 S E - 3	60
集石遺構 1	
集石遺構 2	
図版 9 ~13 出土遺物	61、62、63、64、65

第一章 地理と歴史の環境



1図 中津地方主要遺跡分布図

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 高畠遺跡 | 9 長者屋敷遺跡 | 17 入垣貝塚 |
| 2 高瀬遺跡 | 10 勘助野地遺跡 | 18 大九川流域遺跡群 |
| 3 上万田遺跡 | 11 上ノ原横穴墓群 | 19 森山遺跡 |
| 4 相原麻寺 | 12 上ノ原平原遺跡 | 20 才木遺跡 |
| 5 鴻の巣城跡 | 13 佐知遺跡 | 21 西依伊藤田窯跡群 |
| 6 石堂池遺跡 | 14 黒水遺跡 | 22 諸田遺跡 |
| 7 沖代地区条里跡 | 15 福島遺跡 | |
| 8 ハツ並城跡 | 16 桧垣遺跡 | |

中津市は大分県の北部に位置し、東は宇佐市、西は福岡県築上郡と、南は下毛郡に接し、北は周防灘に面する。人口約67,000人を数え、市域面積は55.67km²の中核都市である。地形は起伏の少ない平坦なものである。西側は山国川の活動による沖積平野が広がる。山国川は英彦山に源を発し津民川、山移川などの支流を集め周防灘に注いでいる。東側は通称、下毛原台地（洪積台地）が広がり標高約20m程の台地は宇佐市まで延びる。ここで中津地方の主要遺跡を概観してみることにする。

旧石器時代の遺跡は洪積台地で散見されつつある。後期旧石器時代に属する。勘助野地遺跡、才木遺跡ではソフトローム層から細石刃や剥片石器などが出土している。

縄文時代の遺跡も洪積台地上に分布している。また山国川の自然堤防上の微高地にも散見される。代表的な遺跡は黒水遺跡、諸田遺跡、棒垣遺跡、入垣貝塚、高畠遺跡などが挙げられる。諸田遺跡は前期の土器片を含むピット群、出土遺物はないが陥穴などが検出されている。後期の遺跡である棒垣遺跡では堅穴住居、土塙墓などが検出されている。また入垣貝塚と隣接し、セットとして考えられる。

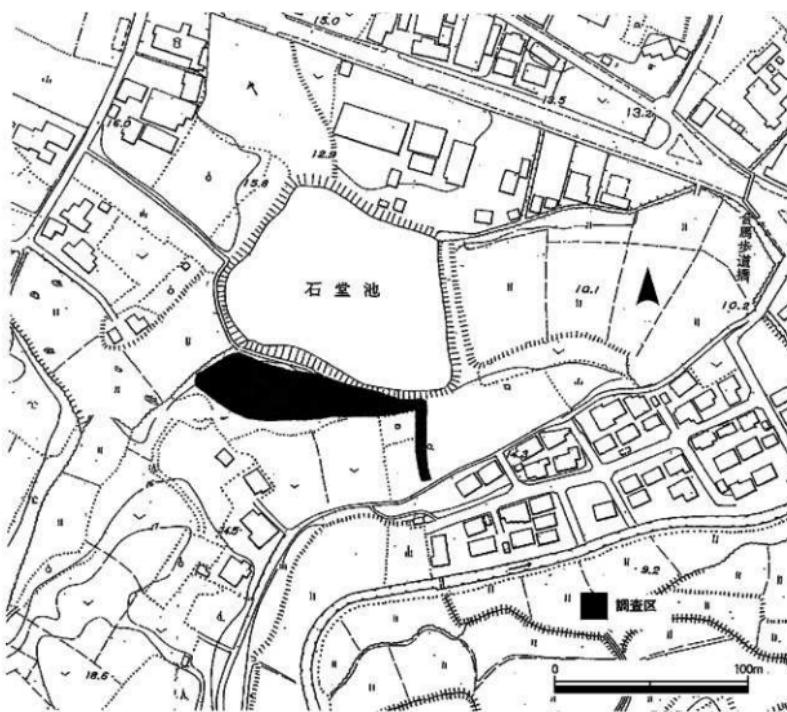
弥生時代の遺跡は前期から中期にかけて洪積台地上に集落を形成し、後期は平野部に散見される。上ノ原平原遺跡、福島遺跡、森山遺跡、上万田遺跡などが代表される。福島遺跡では、中期の溝が直線で160m程確認されており、この台地上では大規模な集落の広がりが予想される。

古墳時代の遺跡は自然堤防上や微高地に集落、台地上に墓地が分布している。佐知遺跡、高瀬遺跡、上方山遺跡、上ノ原横穴墓群、野依伊藤山窯跡群などが代表される。高瀬遺跡、上万田遺跡は本格的な調査は行われていないが、土器片が採集されており集落を予想させる。また平野部では水田遺構も確認されている。野依伊藤山窯跡群では、須恵器、須恵質瓦の生産が開始される。

律令時代の遺跡は相原廃寺、沖代地区条里跡、長者屋敷遺跡などが代表される。百済系单弁瓦を出土する相原廃寺は塔跡と推定される礎石が残存する。平野部には沖代地区条里跡の地割が制定され、台地上に下毛郡衙と推定される長者屋敷遺跡（正倅）が立地する。沖代地区条里跡は近年失われつつ現在もその景観を残す。

中世の遺跡は、石堂池遺跡、諸田遺跡、八ツ並城跡、犬丸川流域遺跡群などが挙げられる。諸田遺跡は平成13年度より調査が行われ、濠に囲まれた居館が検出されている。犬丸川流域遺跡群第7地点でも二重環濠により区画された居館が検出された。また八ツ並城跡でも二重環濠や周辺の土塁が確認されている。中津市内には、23の中世城館と推定される遺跡が点在する。石堂池遺跡周辺でも鴻ノ巣城跡が推定される。正平10年（1355）由布、国府、豊前、城井、博多を攻略した懐良親王は正平13年、宇佐神宮に宝刀（重文）を奉納、正平20年、後醍醐天皇勅願善大楽寺の般若経の奥書きをされた時に、鴻ノ巣城に駐駕されたという伝説が残る。中津市内には中世城館跡と推定される（小字などから）現場付近では、土塁や濠の痕跡が現在でも確認される地点が残る。16世紀、下野国の宇都宮氏が豊前の地頭として入り、秀吉の全国統一まで勢力をふるったとされる。

第二章 調査に至る経緯



2図 石堂池遺跡周辺図 (S = 1/2,500)

1. 調査に至る経緯

大分県は中津市内において平成7年度より県営水環境整備事業（現、地域用水環境整備型、以下事業という）を行っている。平成11年度、大分県教育庁文化課が事業前に行った分布調査で、石堂池周辺に近世墓が確認された。これを受け中津市教育委員会で試掘調査が実施されることとなった。事業は石堂池の南側にあたる部分に公園を作る計画であった。現地は雜木や竹が生い茂り、中に踏み込めない状況であった。試掘調査を平成12年10月24日より実施した。調査区は事業において、地下に影響がある部分に限定して行った。トレントを設定し、重機により掘削を行った。表土より40cmほどで地山に達し、遺構が検出されたことから引き続き本調査へと移行した。本調査は工事内容から3地点に分けて実施した。調査区の西側を1区、中央を2区、東側を3区とした。

第三章 調査の記録

1. 調査概要

1区の調査区半分を重機により開け終えた結果、中世の溝が確認された。また雑木によって確認が困難であった土塁の姿が明らかになってきた。遺構検出を進めると土塁の両側に溝が掘り込まれ土塁の内側には中世～近世に至る遺構が確認された。2区は竪穴住居、井戸、土壙、柱穴などが検出された。調査区の西側の畠地は地続きになり遺跡は広がり古代～近世に至る集落跡になるものと推測される。また2区の東側と北側にも土塁が確認された。3区は小高い丘陵になる。丘陵の南端で表面に墓石の破片がまとまっていた。この直下で土壙を検出した。3区より東側は事業の対象でないが、近年開発された水路を挟み丘陵は続く。ここは緑濃い森で近世墓が密集する。

2. 古代の遺構

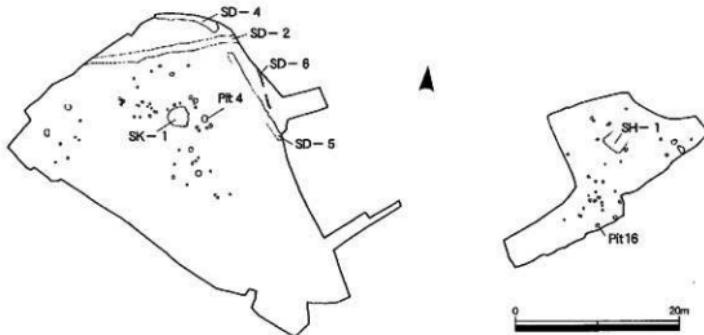
(1) 土壙

土壙はSK-1が検出された。1区の中央部に位置する。
SK-1 円形の土壙である。最大径は約106cmを測る。深さ約8cmと浅い。外側より掘り込まれ、一度隆起し、中央部はピット状に掘り込まれる。性格は不明。黒褐色のばさらばした土層である。遺物は近世の磁器19個、1～5が検出された。流れ込みの土器であると思われる。

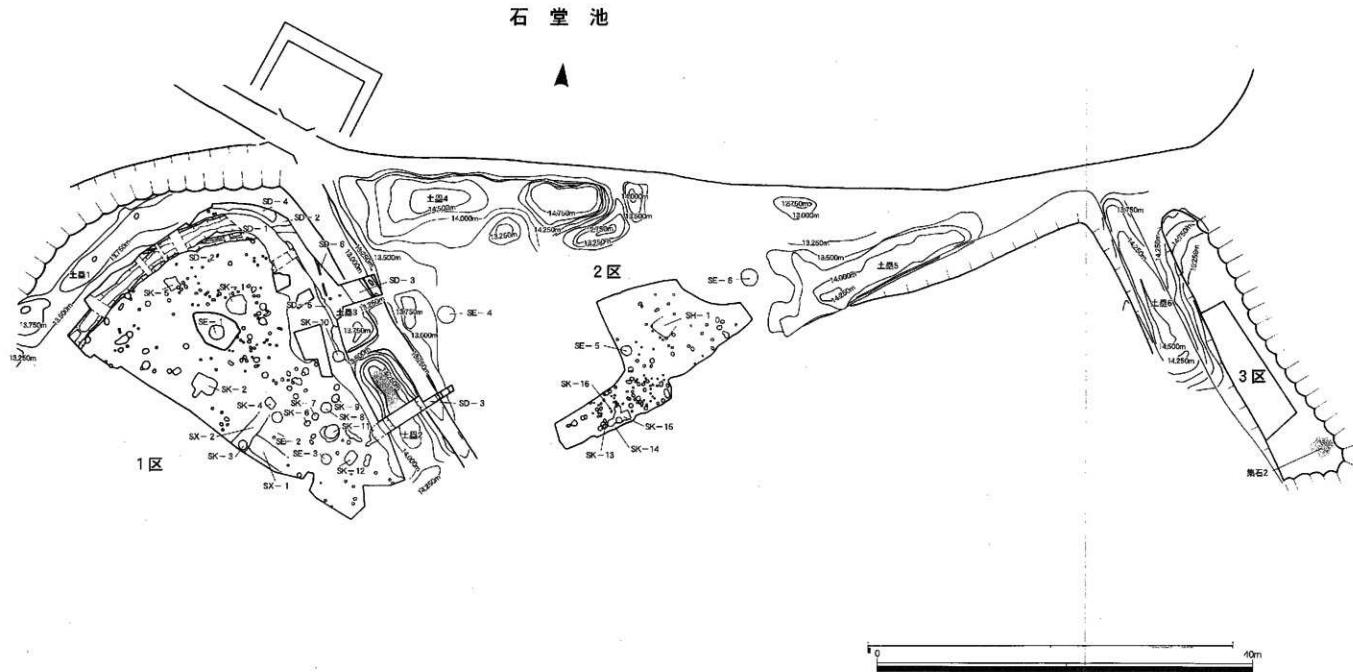
(2) 溝状遺構

溝はSD-2、4、5、6が検出された。このうちSD-2は掘り下げ調査を行ったが、他は未発掘である。埋土よりSD-4、5、6は古代のものと判断した。またSD-2とSD-6は直角に交わり、SD-4、SD-5は同一のものになると思われる。

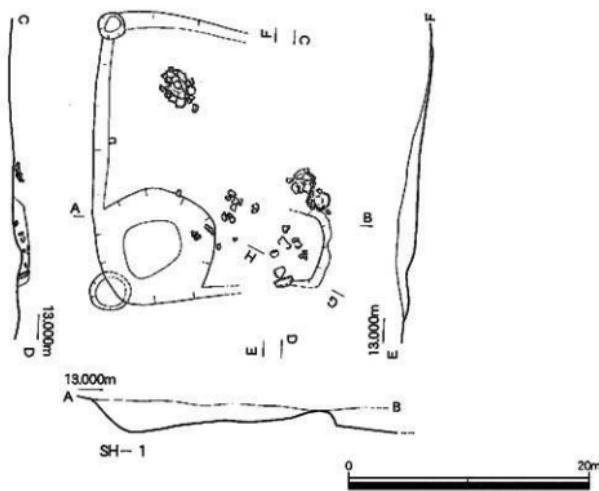
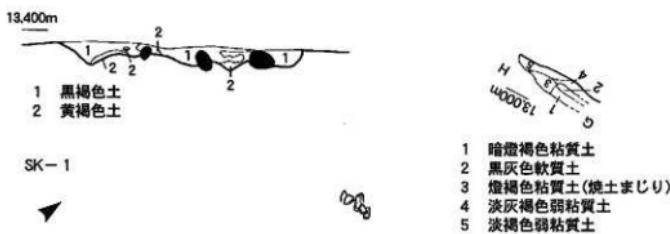
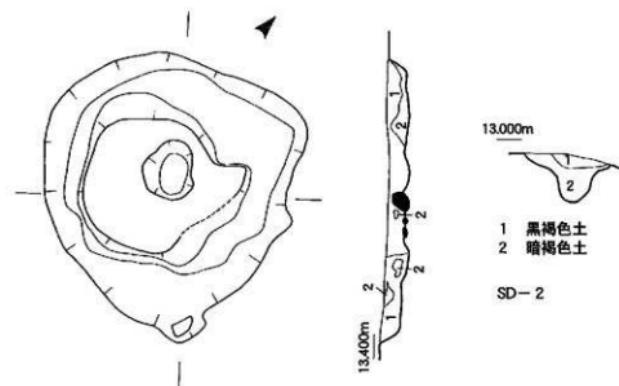
SD-2 SD-2は1区の西側に位置する。一部SD-1に切られ再び東に延びる。幅約72cm、深さ約40cmである。1区調査区の南側に人家があり、ここを通り抜ける里道部分は調査できなかつ



3図 石堂寺遺跡古代遺構図 (S = 1/500)



4図 石堂池遺跡遺構図(S=1/400)



5図 SK-1、SD-2、SH-1図 (S = 1/40)

たが、SD-6とは直行すると推定される。出土遺物は須恵器の壺の口縁部19図、6である。口縁部は上外方にのび、口縁端部はわずかに内側に屈曲する。外面に描波文を施す。

(3) 壁穴住居

壁穴住居はSH-1である。2区の中央部で検出された。

SH-1 SH-1は西側半分を後世の削平により消滅していた。東西幅は最大で約240cm、深さ約10cmで隅丸方形になると思われる。主柱穴は住居の北側コーナー部にピットを1基検出したのみである。また西側コーナー部に深さ25cmほどの掘り込みが検出された。西側中央部に暗褐色の焼土が混じった塊が検出され竈になる。周辺には土師器、須恵器が粉碎された状態で出土した。出土遺物は19図、7~12である。7は須恵器の壺になる。口径11.9cm、器高4.5cmを測る。口縁部は上外方にのび、端部はわずかに外反する。8世紀前半のものになる。9は土師器の皿になる。復元口径15.4cm、器高1.9cmを測る。口縁部は上外方にのび、端部はわずかに外反する。11は土師器の壺である。復元口径18.9cm、器高10.2cmを測る。外面に指削り、ハケ日を施す。内面は削りを施す。12は砥石になる。縦長4.3cm、横長3.45cm、重さ53.9gを測る。

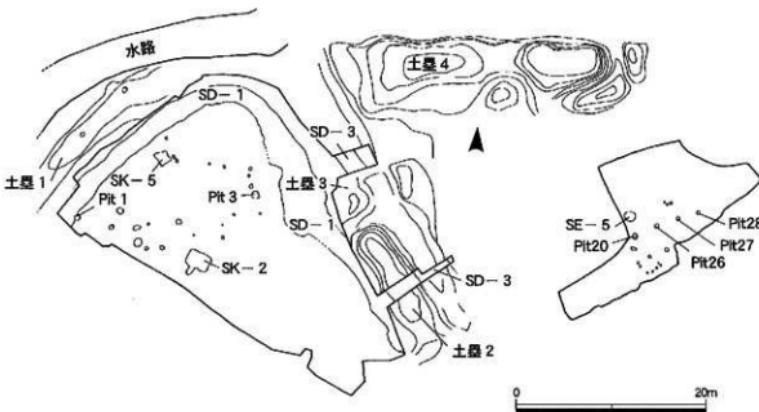
(4) Pit状遺構

Pit状の遺構は1区の北西側と2区の中央部に検出された。埋土が黒褐色のものを古代のものとした。1区は直径25cmほどのPitが検出されたが建物の形をなぞることができなかった。2区も同様であるが直線に並ぶものが確認できた。

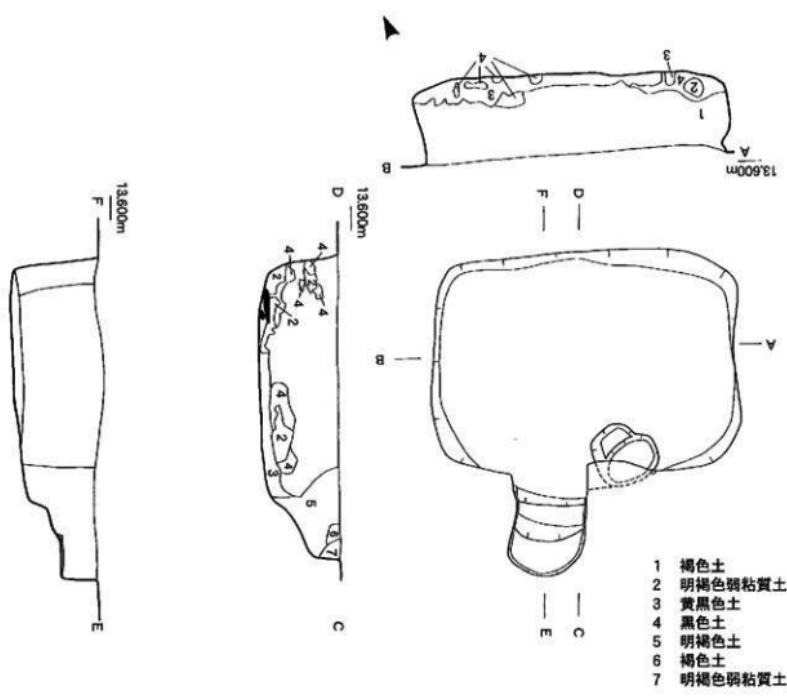
中世の遺構

(1) 土塙

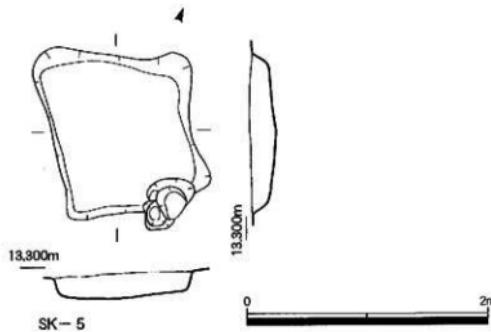
土塙は1区のSK-2、SK-5が検出された。SK-2は1区の南側、SK-5は西側に位置



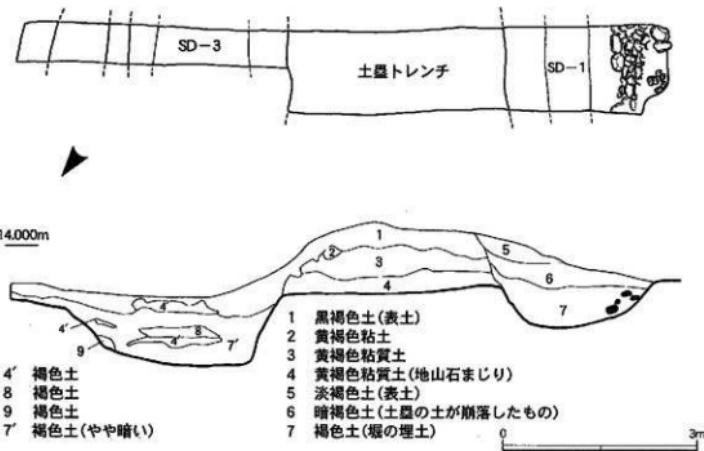
6図 石堂池遺跡中世遺構図 (S = 1/500)



SK-2



7図 SK-2、5図 (S = 1/40)



8図 SD-1、3 土壘 2図 (S = 1/60)

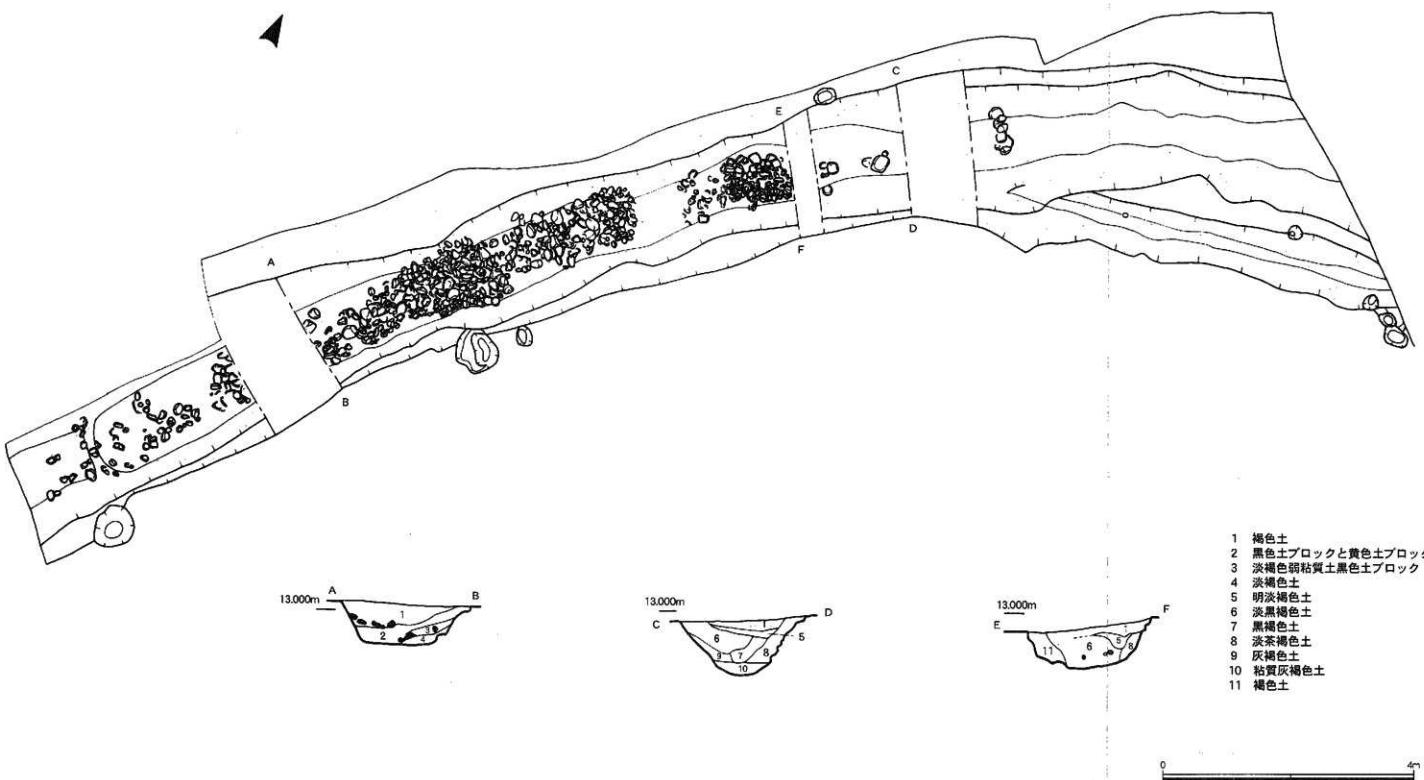
する。

SK-2 SK-2は約248cm×180cmの東西に長い方形で深さは約64cmを測る。南辺に幅約60cmの階段を有する。床面は平坦で方形である。南側の壁面はややオーバーハングぎみに掘られる。また南辺床面に幅約90cm、深さ約20cmのピット掘込まれる。SK-2は地下式土壙になる。埋土上層は同一のものである。出土遺物は20図の13~24である。13は青磁の碗の口縁部である。14は土師質土器の皿になる。復元口径11.7cmを測る。15~17は土師質土器の口縁部になる。17は外面に一条の突帯をめぐらし、雷文のスタンプを施す。18,19は土師質土器の鉢か。19は復元口径22.3cmを測る。内面にミガキを施す。20,21は土師質土器の小皿である。いずれも底部に糸切りを施す。20は復元底径7.2cmを測る。21は復元口径8.3cmを測る。22は磁器の染付碗になる。復元口径10.8cmを測る。肥前系で18C後半~19C中頃。23は銅錢の寛永通宝である。1668年以降、鋳造されたものである。

SK-5 SK-5は方形で幅約132cm×96cmである。深さ約28cm、暗褐色の埋土である。床面は平担である。性格は不明。出土遺物は20図の24~29である。24は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。25は土師質土器の鉢か。復元口径25.3cmを測る。26は瓦質土器の火鉢である。復元口径40cmを測る。27は磁器の染付碗である。外面は花卉文様。口径9.5cm、器高5.8cmを測る。29は瓦質土器の底部か。

(2) 溝状遺構・土壘

溝状遺構はSD-1、SD-3が検出された。SD-1は1区の西側から東にかけてSD-3は1区の東側に位置する。SD-1とSD-3は南北方向に平行に延びる。調査区の西側は開発によ

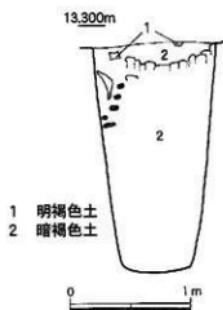
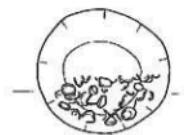


9図 SD-1図(S=1/60)

る地下への影響はなく完屈していない。特にSD-3は現在調査区の南側の人家への里道として使用されていることから一部を発掘したのみである。またSD-1とSD-3の間に土塁2が確認された。土塁は残りがよく、開発において破壊されないよう協議し保存されることになった。

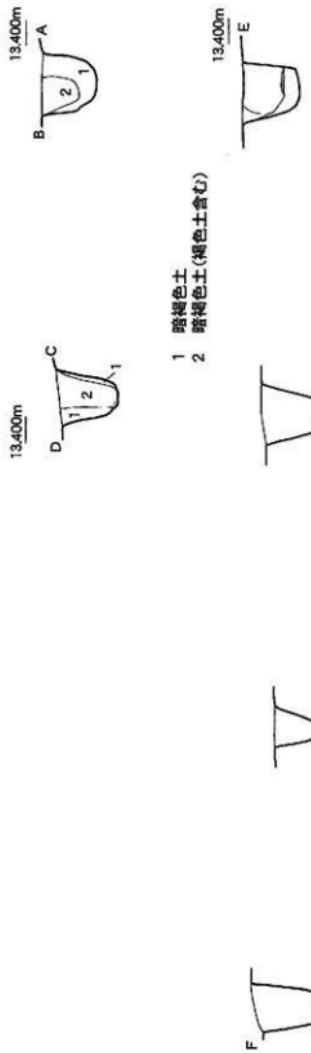
SD-1 SD-1は1区の南側から北へ延び1区調査区の北側で東方向へ弧を画き東へ曲がる。幅約190cm、深さ約60cmである。西側で古代の溝SD-2を切る。掘り下げた西側部分では溝の中層から下層にかけ20~30cmほどの礫が大量に検出された。また中世から近世に至る土器片が検出された。出土遺物は21図、30~44である。30は土師質土器の壺か。31は須恵器の鉢の口縁部か。端部は肥厚し方形をなす。32は土師質土器の口縁部。外面にヘラ削りを施す。33、34は碗の底部になると思われる。33は復元底径5.4cm、34は復元底径6cmを測る。35は須恵器の壺。36は須恵器の壺の口縁部になる。復元口径18.4cmを測る。口縁端部はやや内湾し丸みをもつ。外面に波状文を施す。35、36は流れ込みのものと思われる。37は土師質土器の鉢である。復元口径は26cmを測る。全体に煤が付着する。口縁端部は方形を呈す。16世紀以降のものと思われる。38~40は磁器の碗である。38は口径9.5cm、器高4.25cmを測る。39は口径8.9cm、器高5.15cmを測る。外面は見込み花の染付けを施す。40は口径10.4cm、器高5.8cmを測る。外面は井桁、花の染付けを施す。42、43は磁器の角皿である。43は口径8.2cm、器高2.45cm。内面に菊花の型打を施す。44は染付けの急須である。

SD-3 SD-3は東側の一部を掘り下げたのみである。掘り下げていないが北方向へ延びることが確認された。1区調査区の西側に現在、農業用水路が流れる。里道の関係で調査できなかったがSD-3はこの水路につながるものと推測される。幅約290cm、深さ約80cmで断面は逆台形を呈す。出土遺物は22図の45~76である。45~49は土師質土器の口縁部になる。いずれもSD-3の下層から出土したものである。45は壺の口縁部か。内面にミガキを施す。46は壺か。47、48は鉢か。2点とも内面にミガキを施す。49は口縁端部が肥厚し上外方向へ延びる。50は磁器の鉢か。内面に型打を施す。51は磁器の鉢である。復元口径15.6cmを測る。肥前、18C。52は磁器の筒型碗で復元底径5.6cmを測る。53は磁器の瓶類頸部か。54は磁器の三足付き香炉。肥前、18Cか。55は土師質土器の底部。内面にミガキを施す。58、59は磁器の皿の底部である。58は底径3.7cm、59は復元底径6.4cmを測る。61、62はすり鉢。62は復元底径14.4cmを測る。64は土製品である。器高4.55cmを測る。65~72は磁器の碗になる。65は復元口径10.4cmを測る。胴部で屈曲し口縁部は上方へ延びる。



10図 SE-5図 (S=1/40)

11 図 SB - 1 図 ($S = 1/40$)



67は復元口径12.2cm、器高5.15cm復元底径5cmを測る。71は底径4.8cmを測る。外面に草花の染付けか。72は復元底径4.3cmを測る。73は磁器の皿である。復元底径8.8cmを測る。75は陶器の壺である。肥前唐津系か。18C後半と思われる。

土壙 調査区全体で確認された土壙は6基である。土壙1は1区の西側に位置するSD-1と農業用水路の間で確認された。残りの状態は悪く、調査時にわずかな高まりが観察できた。確認できたのは長さ約15.6m、幅約5.2m、高さ約60cmである。土壙2、3はSD-1、SD-3の間に位置する。土壙2と土壙3の間に幅約1mの通路状の道が現存していた。溝が掘られ土壙が築き上げられたときからのものか、後世に土壙が切られたのかは判断できなかった。土壙2の長さは約15.6m、幅約5.2m、高さ約1mである。土壙3は長さ約4m、幅約4m、高さ約1.2mである。土壙4は1区と2区の間、北側に位置する。土壙の北側は石堂池になることから土壙の南側に重機でトレーナーを掘削したが溝状の遺構は検出できなかった。しかし土壙4の南直下と西直下に3つのくぼ地が確認され、土壙に関連するものと推測される。土壙4の長さは約30m、幅約8m、高さ約1.2mである。土壙5は2区の東側に位置する。土壙5の南側に農業用水路と思われる浅く幅の狭い溝が確認でき、土壙に関連するものと推測される。土壙5は長さ約24m、幅約8m、高さ約80cmである。土壙6は3区調査区の西側に位置する。土壙5の南側の溝が土壙6方向へ延び、直角に南へ折れる。土壙6は直角に折れた地点から確認される。長さ約12m、幅約6m、高さ約1mである。

井戸

S E-5 井戸は2区の北西にS E-5を検出した。円形で直径約108cm、深さ約188cmを測る。検出面より1層は暗褐色の土層が約15cm埋まり、これより下層は10~20cmほどの疊が詰め込まれるように検出された。疊は井戸を封じる時に投げ込まれたものと推測される。出土遺物はなく時期の決め手にかけるが、埋土より中世のものと判断した。

掘立柱建物

S B-1 掘立柱建物は2区の中央部でSB-1を検出した。土層からPit20とPit26で柱痕が確認できた。柱痕間は2.2mである。柱穴の掘り方は4基とも円形で、直径約40cmである。深さはPit20が約42cm、Pit26は約43cm、Pit27が約36cm、Pit28が約46cmである。調査区内で方形の形を描くPitは確認できなかったが、調査区外の南側に柱穴は並ぶものと推測される。出土遺物はPit20より瓦質土器の鉢、23図、76が出土した。口縁部は上外方へのび、端部は方形を呈す。外面に指押さえを施す。

Pit状遺構

Pitは暗褐色の埋土のものを中世のものと判断した。1区の西側と2区の中央部に集中する。特に2区の中央部は前記したSB-1が検出されたことから掘立柱建物の存在が期待されたが、確認できたのはこれのみであった。

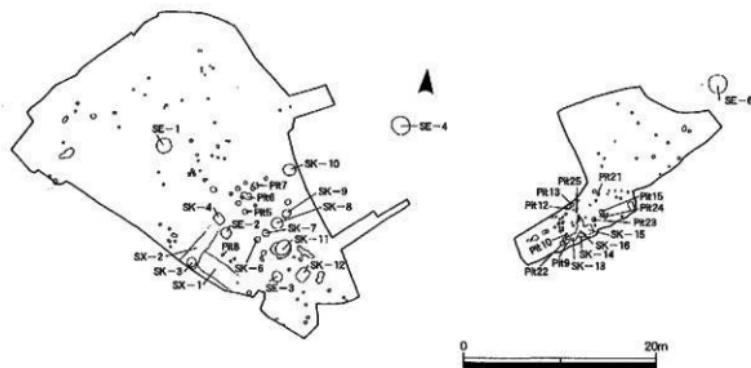
近世の遺構

(1) 土壙

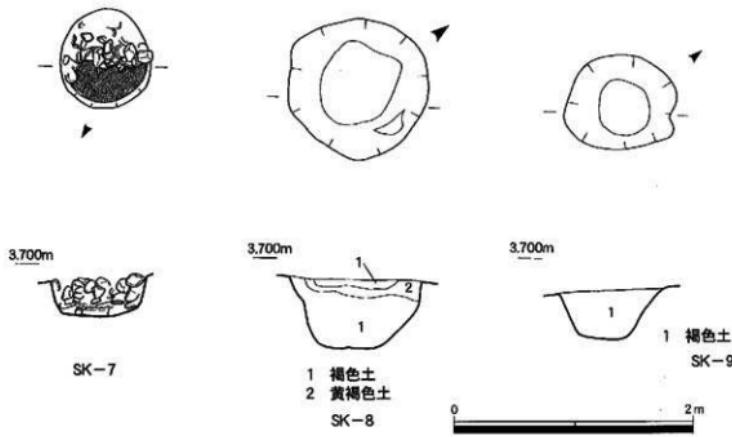
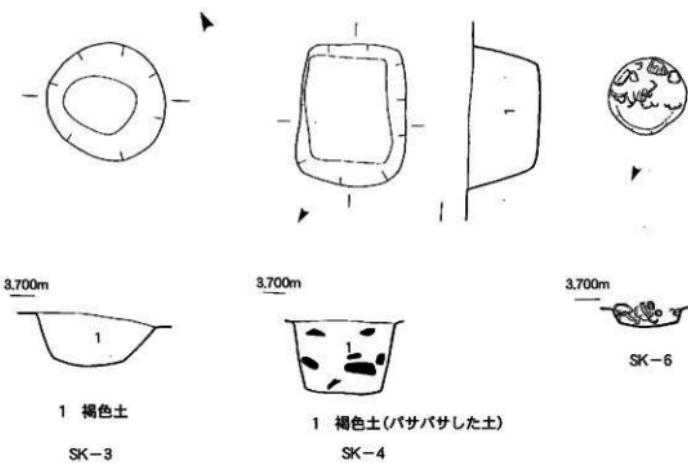
土壙は1区のSK-3、4、6、7、8、9、11、12、2区のSK-13、14、15、16が検出された。また1区の西側でSK-10が検出されたが事業による影響がないことから掘り下げて調査は行っていない。SK-10の掘り方の回りは漆くいが貼り付けられ円形になる。性格は便所となるものと推測される。

SK-3 SK-3は1区の南側で検出された。円形で直径は約96cm、深さ約40cmである。浅く掘り込まれたSX-2の中央部で検出されたが埋土は同様で色別できず、SX-2に関連するものは不明である。出土遺物は24個の77~80である。77、78は磁器の碗である。77は復元口径9.8cm、器高5.1cm、復元底径4.2cmを測る。外面に唐草の染付を施す。肥前系で18C後半のものである。78は復元底径4.4cmを測る。外面は梅樹の染付か。18C後半のものと思われる。79は磁器の小壺になる。復元口径6.4cm、器高1.9cm、復元底径3cmを測る。肥前系で1820~1860年代のものになる。80は陶器の壺の底部か。復元底径7.4cmを測る。

SK-4 SK-4は1区の中央やや西側で検出された。方形に掘り込まれ、コーナー部は直角に折れ曲がる。床面もフラットで、掘り方が丁寧である。約116cm×88cmの長方形で、深さ約60cmを測る。埋土は褐色で10~20cm程の疊が10数個検出された。SK-4の50cm程西側で井戸(SE-2)が検出され、これに関連する遺構であることが推測される。出土遺物は24個の82~87である。82~84は磁器の蓋になる。82は口径8.5cm、器高2.7cmを測る。肥前系で1820~1860年代のものである。83は口径9.7cm、外面に梅樹の染付を施す。関西系か。18C後半。84は口径6.8cm、器高2.85cmを測る。85は磁器の皿になる。復元口径12.8cm、器高2.55cm、復元底径9cmを測る。



12図 石堂池遺跡近世遺構図 (S = 1/500)



13図 SK-3、4、6、7、8、9図 (S = 1/40)

外面に蛸唐草の染付を施す。86は磁器の筒型碗になる。復元口径5.9cmを測る。肥前系。18C。87は磁器の碗である。肥前系。18C。

SK-6 SK-6は1区の西側に位置する。円形で直径約64cm、深さ約12cmである20cm程の縁が詰め込まれるように出土した。性格は不明である。出土遺物は24図、88である。土師質土器の鉢である。復元底径19.4cmを測る。

SK-7 SK-7はSK-6の北側約40cmに位置する。円形で直径約40cm、深さ約32cmである。SK-6と同様に20cm程の縁が詰め込まれるように出土した。またSK-7の床面は漆くいのようなもので整地されていた。性格は不明であるが、SK-6と形状が酷似し関連が推測される。出土遺物は24、25図、89～97である。89、90は磁器の碗である。89は復元口径12.3cmを測る。肥前系。18C後半。90は復元口径14.3cmを測る。内面に植物と格子の染付を施す。肥前系。19C中葉。91は瓦質土器である。復元口径30.6cm、器高6.55cm、復元底径25.8cmを測る。内面に煤が付着する。92は土師質土器の火鉢である。復元口径18.4cm、器高8.9cm、復元底径13.8cmを測る。93は磁器の皿である。94は磁器の仏飯器である。復元底径3.6cmを測る。肥前系。18C後半～19C中頃。95は陶器の蓋になる。復元口径6.7cmを測る。外面にイッチン掛けを施す。関西系。18C後半。96は陶器の急須の口になる。97は筒型碗になる。

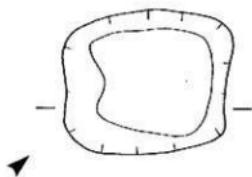
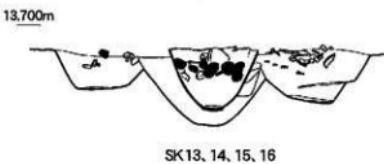
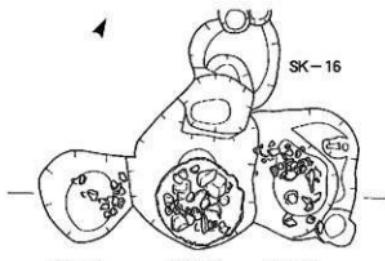
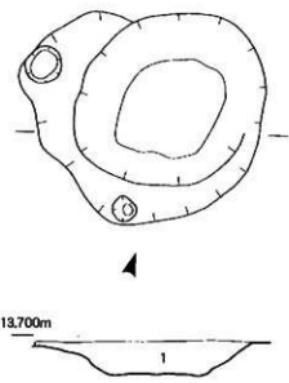
SK-8 SK-8はSK-7の北側約80cmに位置する。円形で直径約116cm、深さ約56cmを測る。褐色の土が埋土する。出土遺物は伴わず性格、時期とも不明である。

SK-9 SK-9はSK-8の北側に位置する。楕円形で長軸が約88cm、短軸は約76cm、深さ約40cmを測る。出土遺物は伴わず性格、時期とも不明である。

SK-11 SK-11は1区の西側に位置する。楕円形で東西約208cm、南北約180cm、深さ約28cmを測る。褐色のしまった土が埋土する。出土遺物は25図、98～105である。98～100は瓦質土器である。外面に煤が付着する。99も鉢か。100は火鉢である。101は土師質土器の大甕である。復元口径68.4cmを測る。102は土師質土器の鉢か。103は陶器の碗の底部である。底径4.7cmを測る。104は磁器の碗である。外面に風景の染付を施す。105は瓦質土器の茶釜か。

SK-12 SK-12は1区の西側に位置する。隅丸の方形で東西約120cm、南北約132cm、深さ約36cmを測る。床面はフラットである。出土遺物は伴わず、時期、性格は不明である。

SK-13 SK-13は2区の西側に位置する。一部SK-14に切られる。楕円形で東西約52cm、南北約76cm、深さ約28cmを測る。出土遺物は25図の106、107である。106は土師質土器の壺の底部か。底径17.6cmを測る。107は陶器の行平鍋か。外面に煤が付着する。



- 1 褐色土
- 2 褐色土(黒色ブロックを含む)
- 3 黄褐色土
- 4 暗褐色粘質土

0 2m

14図 SK-11、12、13、14、15、16図 ($S = 1/40$)

S K - 14 S K - 14 は S K - 13 と S K - 15 の間に位置する。S K - 13 を切り S K - 15 に切られる。楕円形で東西約 100cm、南北約 124cm、深さ約 56cm を測る。内部には土師質土器の大甕が据えられる。甕は胴部以上約半分が消失していた。甕の上部は意図的に破壊されたものと推測される。甕の内部に河原石が検出される。出土遺物は 25、26 図の 108 ~ 112 である。108 は陶器の碗である。復元口径 8.1cm を測る。109 は磁器の碗である。復元口径 9.9cm、器高 5 cm、底径 4.4cm を測る。肥前系。18C。110 は陶器の壺か。復元口径 7 cm を測る。111 は磁器の蓋である。復元口径 8.2cm を測る。外面に松樹の染付を施す。112 は土師質土器の大甕である。底径 18.1cm を測る。内面に刷毛目、外面に指押さえ、板状圧痕を施す。

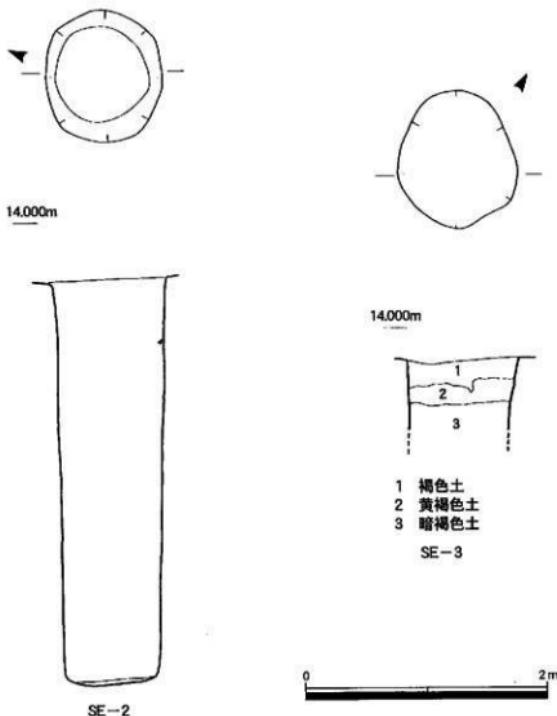
S K - 15 S K - 15 は S K - 14 の東側に位置する。S K - 14 を切る。楕円形で南北 108cm を測る。東北壁に一段のテラス状のものを有する。出土遺物は 27 図の 113 ~ 130 である。113 ~ 116 は陶器の碗になる。113 は復元口径 9.4cm、器高 6.7cm、復元底径 4.2cm を測る。肥前系。17C 後半 ~ 18C 前半。114 は復元口径 9 cm、器高 5.75cm、底径 3.4cm を測る。外面に筆の色絵を施す。関西系。115 は復元口径 9.6cm、器高 4.9cm、復元底径 3.8cm を測る。外面に植物の染付か。116 は底径 4.4cm を測る。肥前系。117 ~ 119 は磁器の碗になる。117 は復元底径 3.1cm を測る。肥前系。18C 後半か。118 は底径 3.8cm を測る。119 は復元口径 15.1cm を測る。肥前系。19C。120 は陶器の鉢か。復元底径 4.9cm を測る。121 は磁器の碗か。底径 4.6cm を測る。122 は磁器の皿である。復元底径 8 cm を測る。肥前系。123 は瓦質土器の火鉢である。124 は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。125 は陶器の甕。126、127 は陶器の擂鉢である。128、129 は陶器の瓶である。128 は外面に刷毛目を施す。肥前系。18C 後半。130 は磁器の壺か。復元底径 11.6cm を測る。

S K - 16 S K - 16 は S K - 14 の北側に位置し、S K - 14 を一部切る。不定形で、東西約 72cm、南北約 48cm、深さ約 37cm を測る。出土遺物は伴わず、時期、性格は不明である。

(2) 井戸

井戸は 1 区の SE - 1、2、3、1 区と 2 区の中間地点に SE - 4、2 区と 3 区の間に SE - 6 が確認された。このうち SE - 1、SE - 4、SE - 6 は調査前から地表面で確認されていた。井戸には水がたまり調査は不可能と判断し、平板測量で位置を表記したのみである。

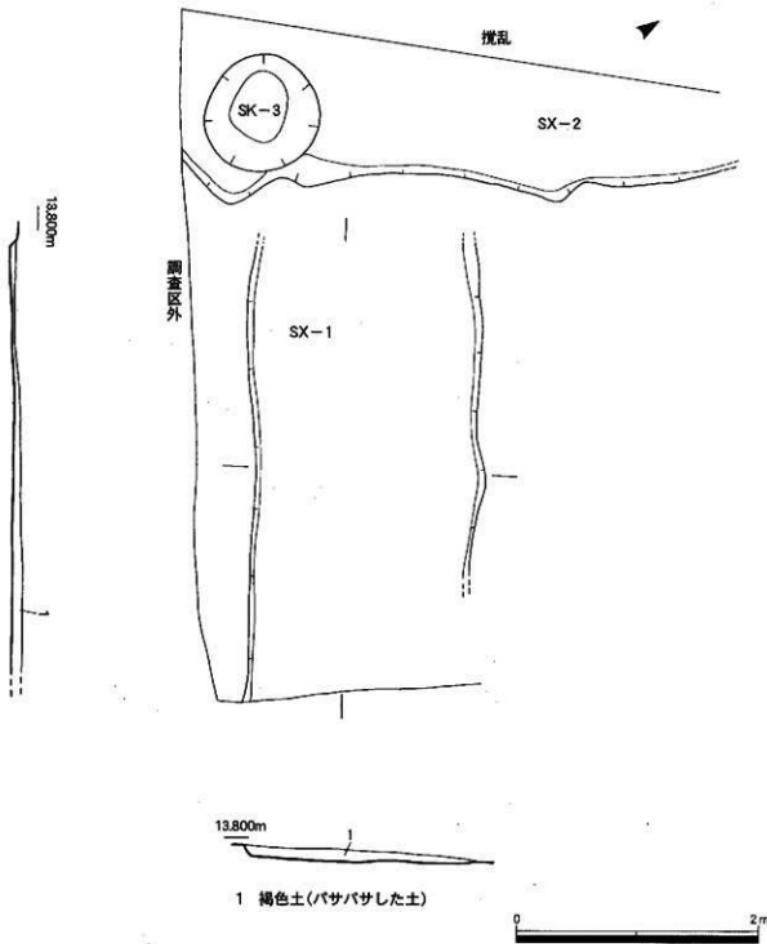
SE - 2 SE - 2 は 1 区の南東側に位置する。円形で直径約 100cm、深さ約 328cm を測る。地盤が固く崩落の危険はないと判断し掘り下げる。40cm 掘り下げるとき 20cm 程の礫が數十個検出された。これより下層は暗褐色の土層である。出土遺物は 28、29、30 図の 131 ~ 160 である。131 ~ 143 は磁器の碗になる。131 は復元口径 9.3cm、器高 5.45cm、復元底径 4.4cm を測る。肥前系。18C 後半。132 は復元口径 9.6cm、器高 7.45cm、復元底径 5 cm を測る。外面に唐草の染付を施す。133 は口径 10.2cm、器高 5.6cm、底径 4.1cm を測る。外面に梅樹、雪輪の染付を施す。134 は復元口径 7.5cm、器高 3.9cm、復元底径 4.5cm を測る。関西系。18C 後半。137 は口径 10.6cm、器高 7.5cm、底径 4.8cm を測る。肥前系。138 は復元口径 9.2cm、器高 5.05cm、底径 3.7cm を測る。外面に植物の染付か。



15図 SE-2、3図 ($S = 1/40$)



写真1 SE-4



16図 SX-1、2図 (S = 1/40)

139は復元底径4.4cmを測る。外面に刷毛目を施す。肥前系。17C後半～18C前半。140は復元底径4.1cmを測る。外面に植物の染付か。142は底径4.4cmを測る。143は復元底径4.1cmを測る。外面に植物の染付か。144は磁器の紅皿である。口径6.5cm、器高2.8cm、底径2.6cmを測る。外面に朱の染付を施す。肥前系。18C後半。145は陶器の甕か。復元口径33.1cmを測る。口縁部に刷毛目を施す。146は磁器の皿か。底径9.2cmを測る。147は陶器の鉢である。復元底径8cmを測る。148は瓦質土器。149は土師質土器の鉢か。内面にミガキを施す。150は陶器の蓋である。口径9.9cmを測る。底部に糸切りを施す。151は陶器の灯明皿である。口径9.1cm、底径4.3cmを測る。底部に糸切りを施す。152は土師質土器の小皿である。口径8.7cm、器高1.7cm、底径6.6cmを測る。底部に糸切を施す。153、154は土師質土器の鉢か。153は復元口径29.8cm、154は復元口径22.2cmを測る。155は陶器の火容か。口径13.2cm、器高7.5cm、底径13.7cmを測る。156は陶器の鉢である。復元口径22cm、器高12.1cm、復元底径10cmを測る。肥前系。157は土師質土器である。器種は不明である。外面にミガキを施す。158は土師質土器の甕である。復元口径37.9cmを測る。内面に刷毛目を施す。159は土師質土器の大甕である。復元口径69cmを測る。内面に刷毛目、あて具痕を施す。160は陶器の擂鉢である。復元口径40cmを測る。18C前半～19C中頃。

S E - 3 S E - 3は1区の西側で検出された。埋土上層はS E - 2と酷似する。円形で直径116cmを測る。事業において遭構が破壊されないこと、S E - 2を完屈したことからS E - 3は検出面より約60cm掘り下げ、井戸になると判断した。上層からの出土遺物はない。

(3) 不明遺構

不明遺構はS X - 1、S X - 2が1区の南西側で検出された。

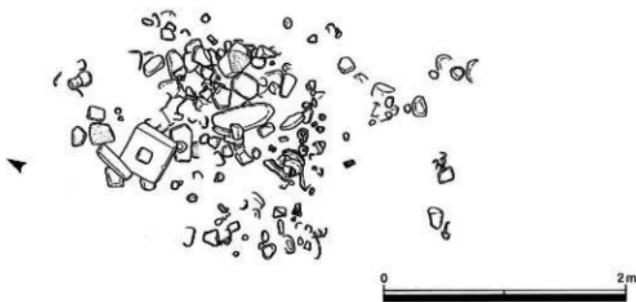
S X - 1 S X - 1は検出された部分で最大幅188cm、深さ8cmを測る。床面はフラットである。出土遺物はないが、埋土が褐色であることから近世の遺構であると判断した。

S X - 2 S X - 2はS X - 1の西側に位置する。S X - 2の西側は搅乱を受け幅は不明である。長さも南側は調査区外に、北側は遺構の掘り込みが浅く消滅し不明である。深は約10cm、埋土はS X - 1に酷似する。出土遺物は伴わないがS X - 1と同時期であると推測される。

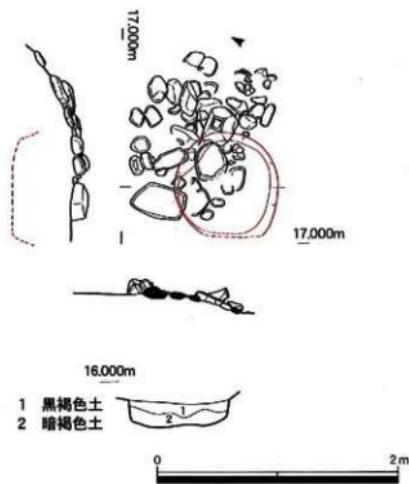
(4) 集石遺構

集石遺構は1区の土壘2の上部に集石遺構1が、3区の南端に集石遺構2が位置する。いずれも地表面に墓石、石、近世の遺物が検出された。

集石遺構1 集石遺構1は土壘2の北側の上部に散乱していた。30図、161は磁器の小壺である。復元口径6.1cmを測る。肥前系。18C。162、163は磁器の碗である。162は復元底径6cmを測る。外面に花唐草の染付を施す。163は口径6.3cm、器高5.2cm、底径3.4cmを測る。肥前系。1820～1860年代。164は磁器の仏飯器である。底径4cmを測る。165は磁器の皿である。内面に寿の刻



17図 集石造構1図 ($S = 1/40$)



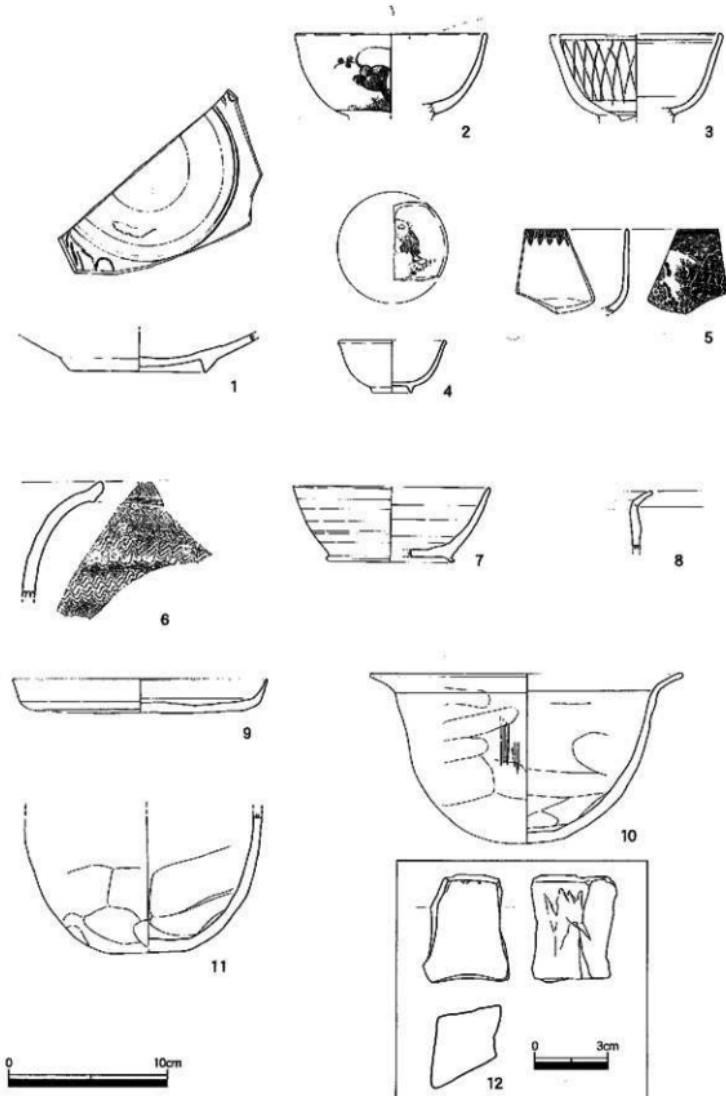
18図 集石造構2図 ($S = 1/40$)

印を施す。瀬戸美濃。166は陶器の皿である。復元底径4.2cmを測る。唐津系。167は土師質土器か。168は土師質土器の小皿である。復元口径10.1cm、器高1.85cm、復元底径8.4cmを測る。169は瓦質土器の火鉢か。復元底径24.6cmを測る。170は土人形。32図、191は石塔。192は五輪塔。191、192の石材は安山岩である。

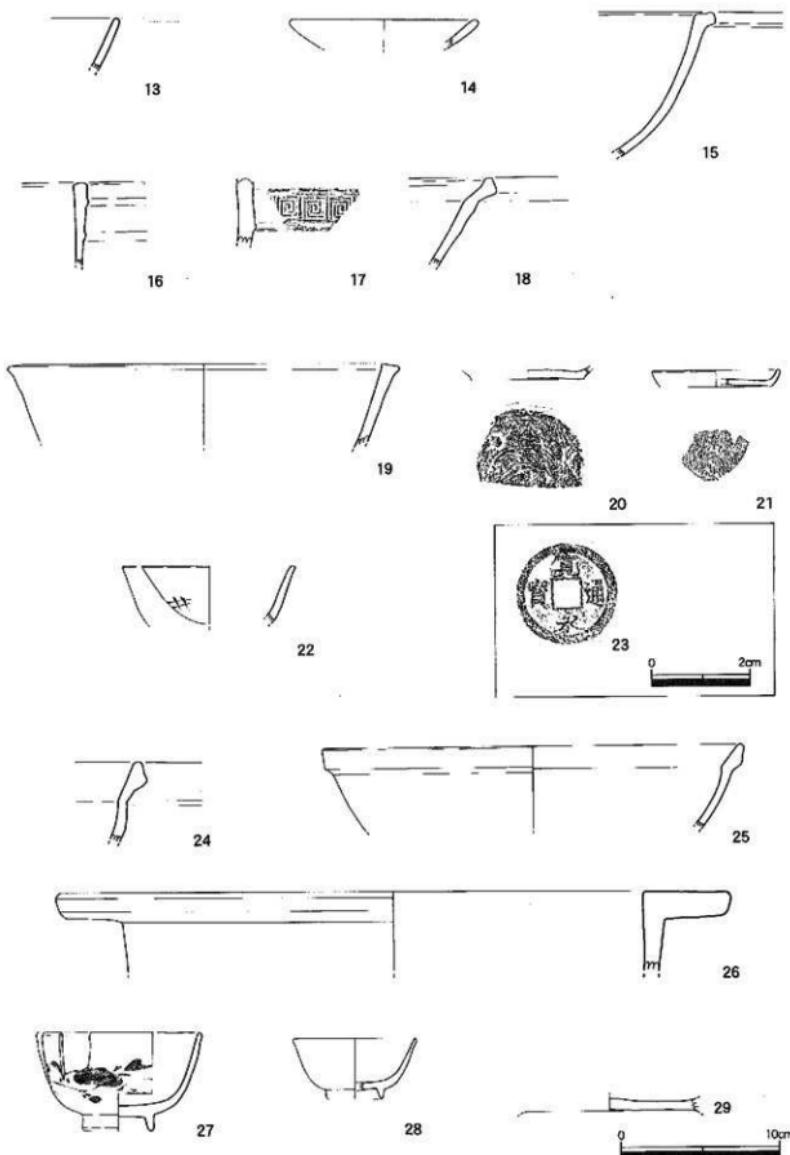
集石遺構2 集石遺構2は3区の南端に墓石、石が表面にまとめられるように検出された。墓石、石を取り除くと直下で円形の土壙を検出した。土壙は直径約164cm、深さ約42cmである。墓石に伴うものかは不明である。土壙からの出土遺物は1点もなく時期、性格は不明である。193は角塔婆。194、195は五輪塔。196は板碑。(33図) いずれも石材は安山岩である。

(5) Pit状遺構

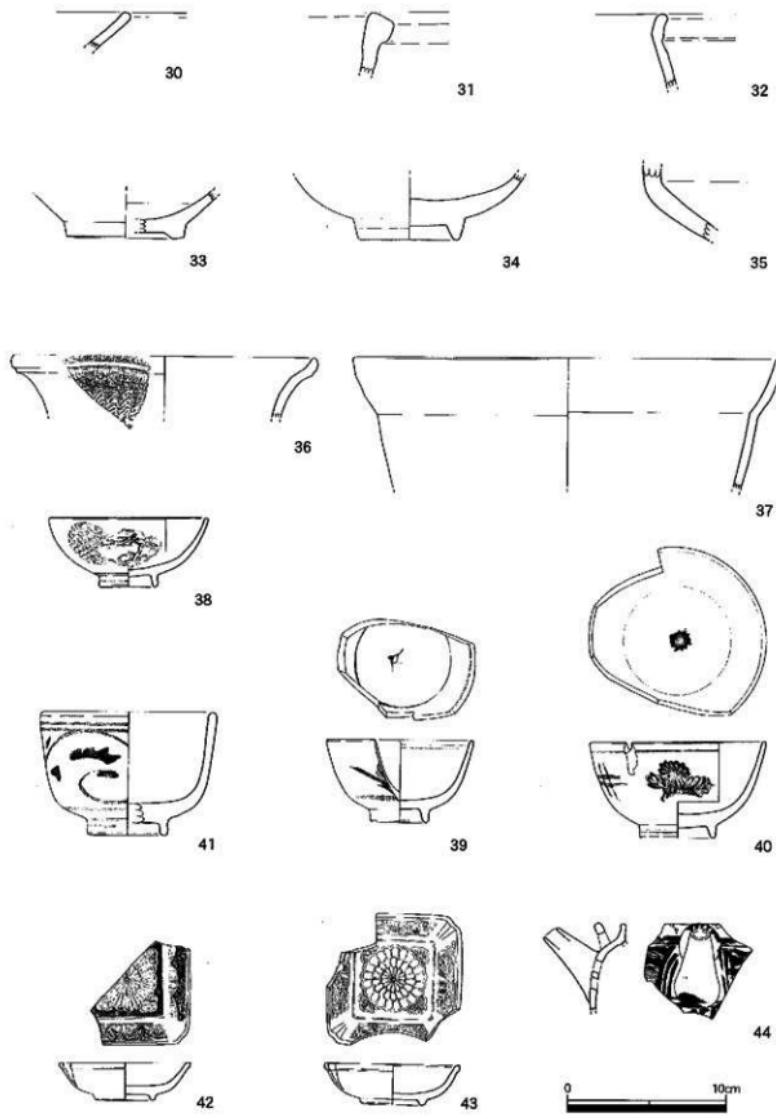
Pitは褐色のものを近世のものと判断した。1区の中央部と2区の西側にPitが集中して検出された。直線に並ぶものが見られるが建物の形をなぞることはできなかった。Pit10から31図の184、瓦質土器の鉢。Pit22から31図の187、188が出土した。187は陶器の碗である。復元口径13.3cmを測る。188は陶器の壺である。外面に波状文を施す。Pit24から31図の189が出土した。瓦質土器の壺か。



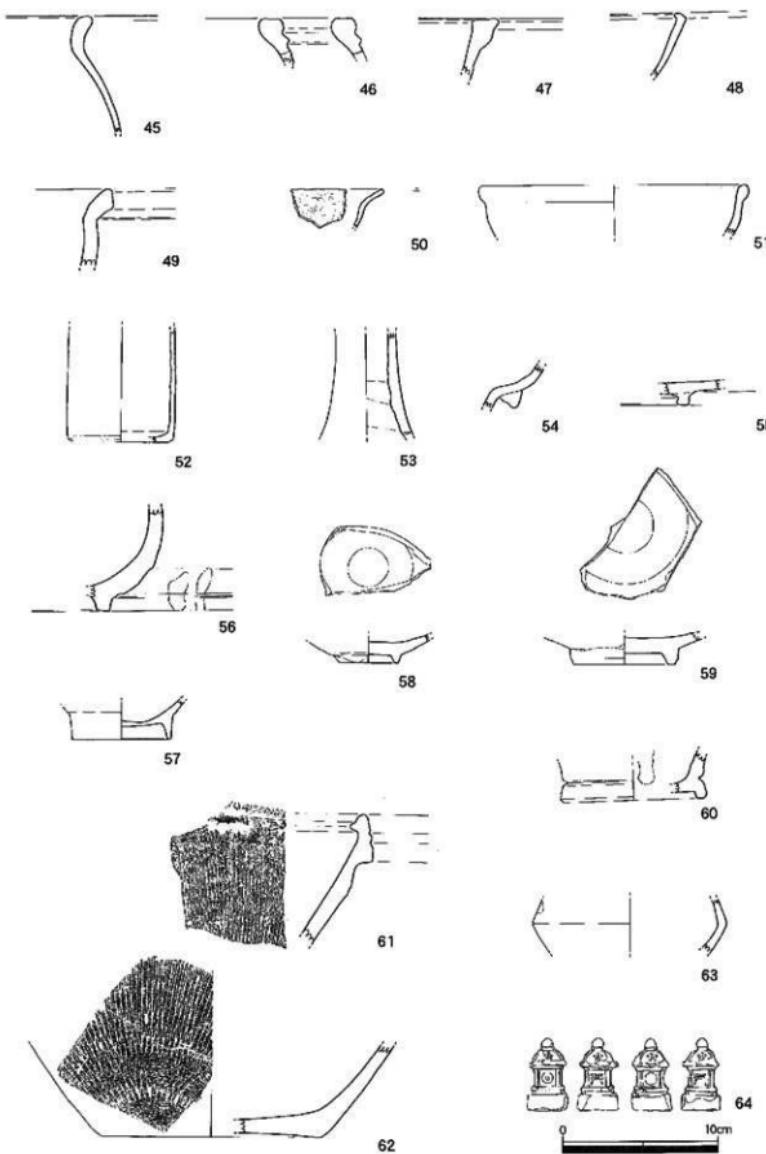
19図 石堂池遺跡出土遺物実測図



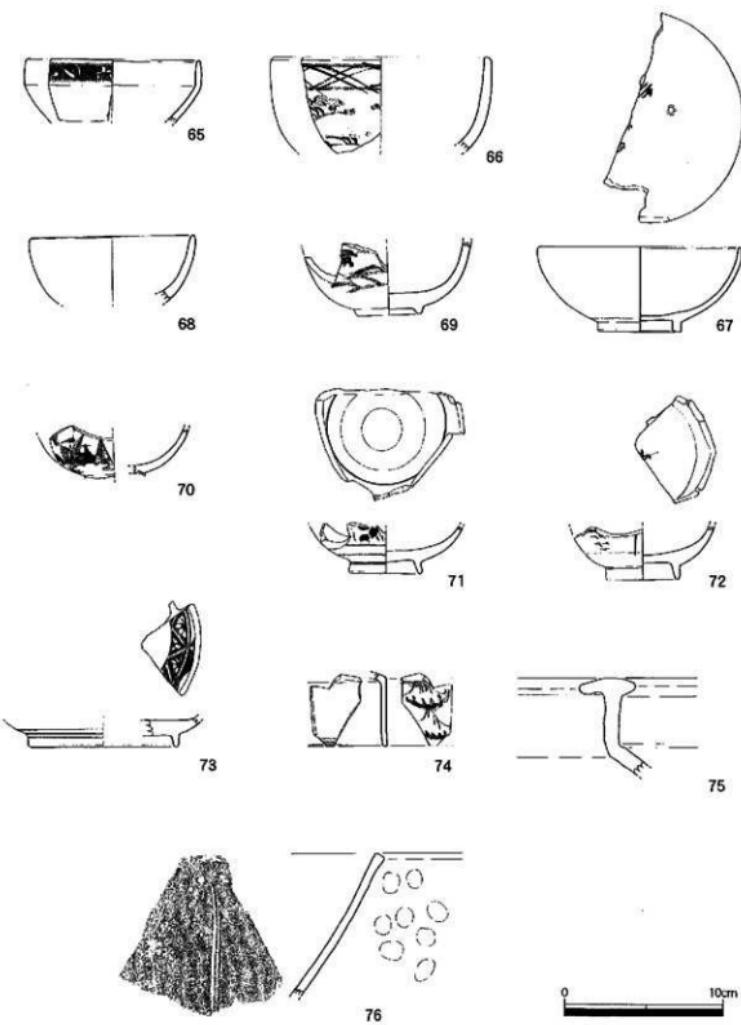
20図 石堂池遺跡出土遺物実測図



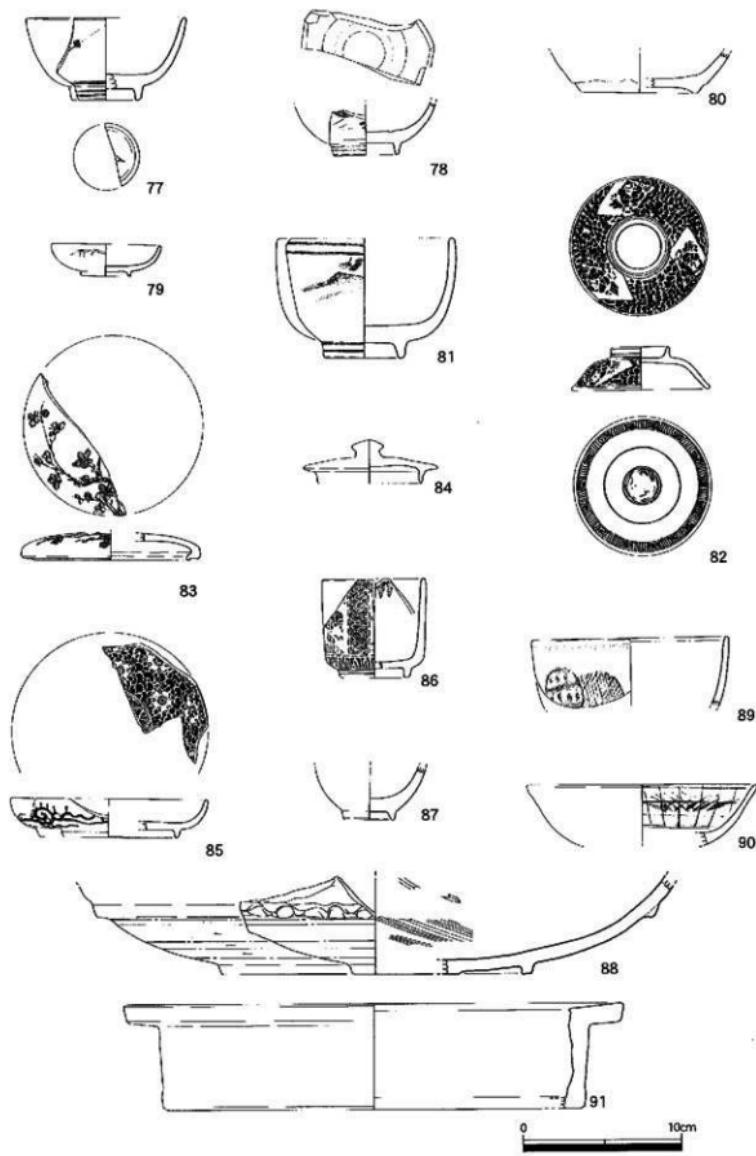
21図 石堂池遺跡出土遺物実測図



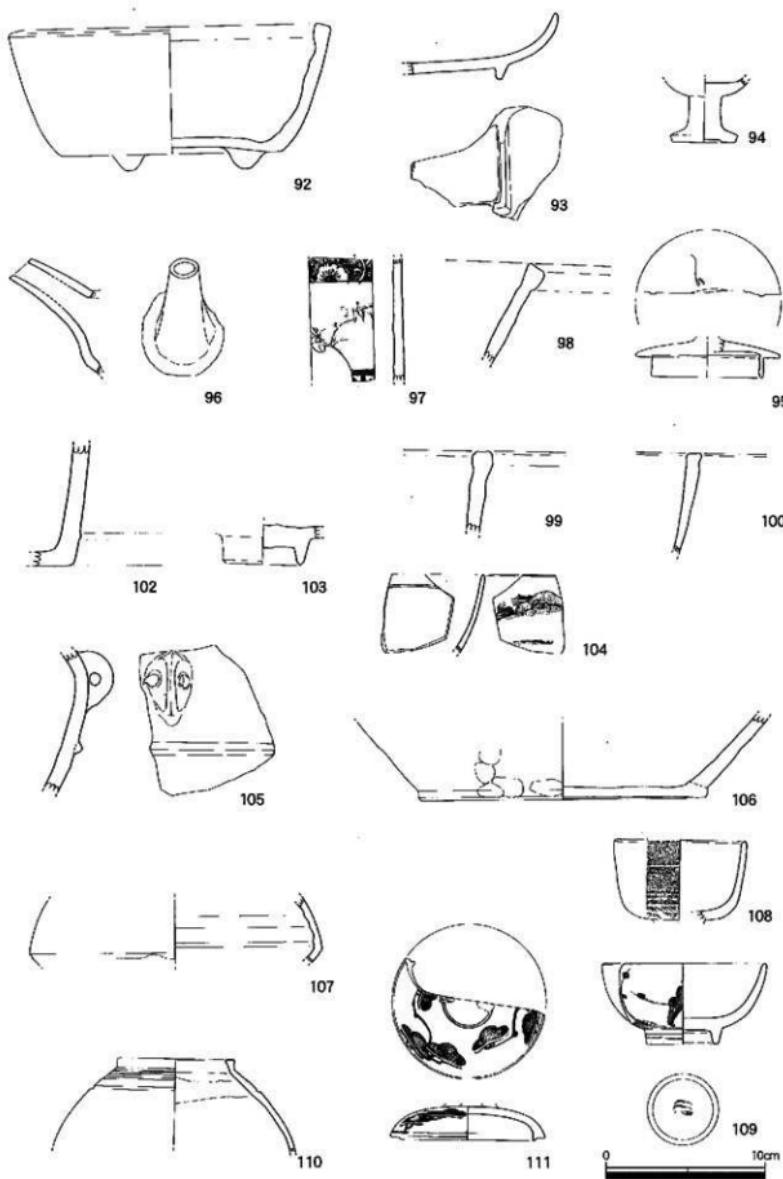
22図 石堂池遺跡出土遺物実測図



23図 石堂池遺跡出土遺物実測図

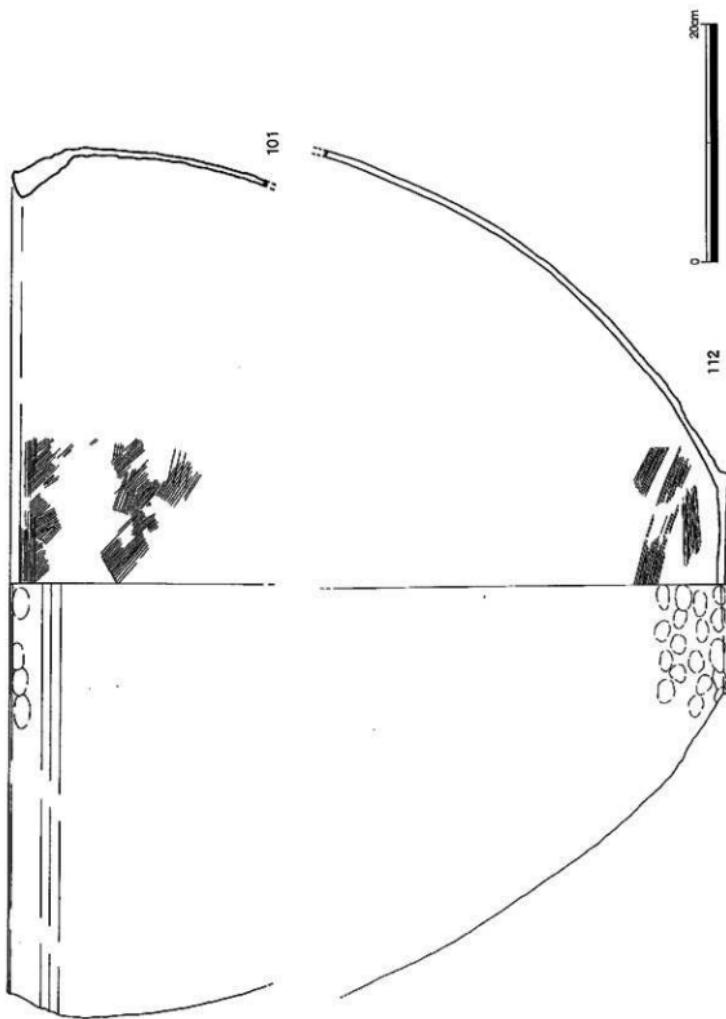


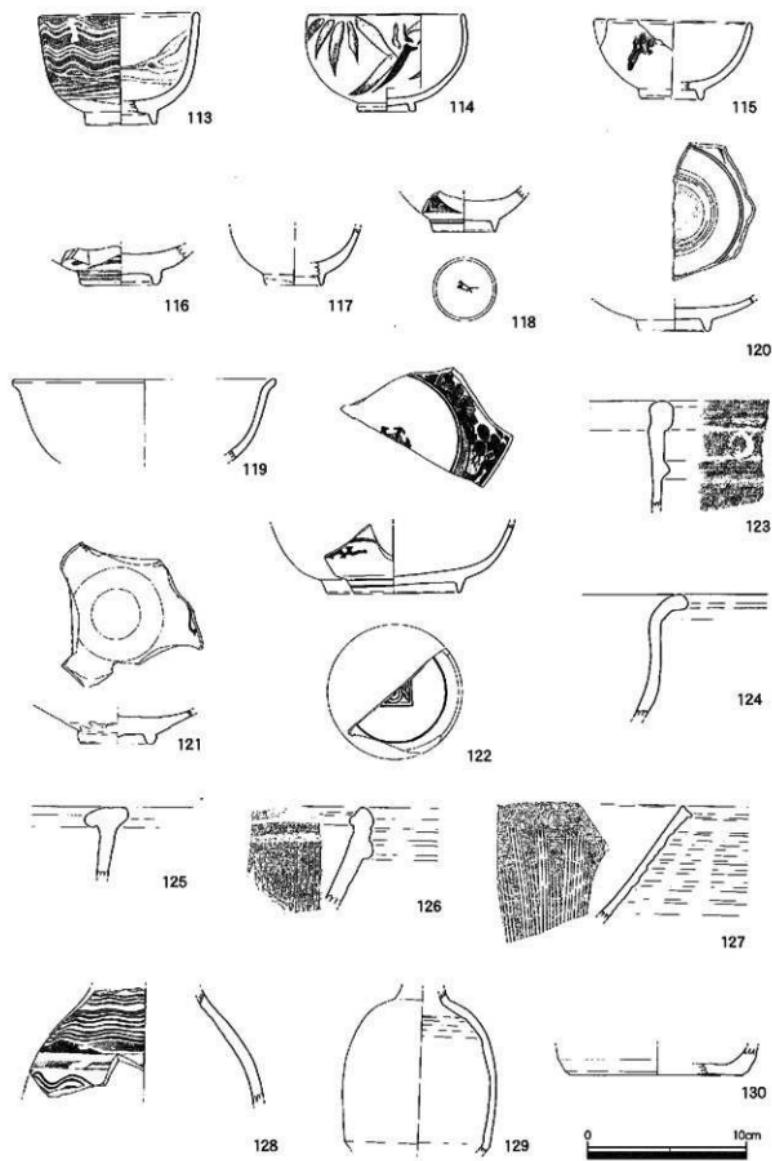
24図 石堂池遺跡出土遺物実測図



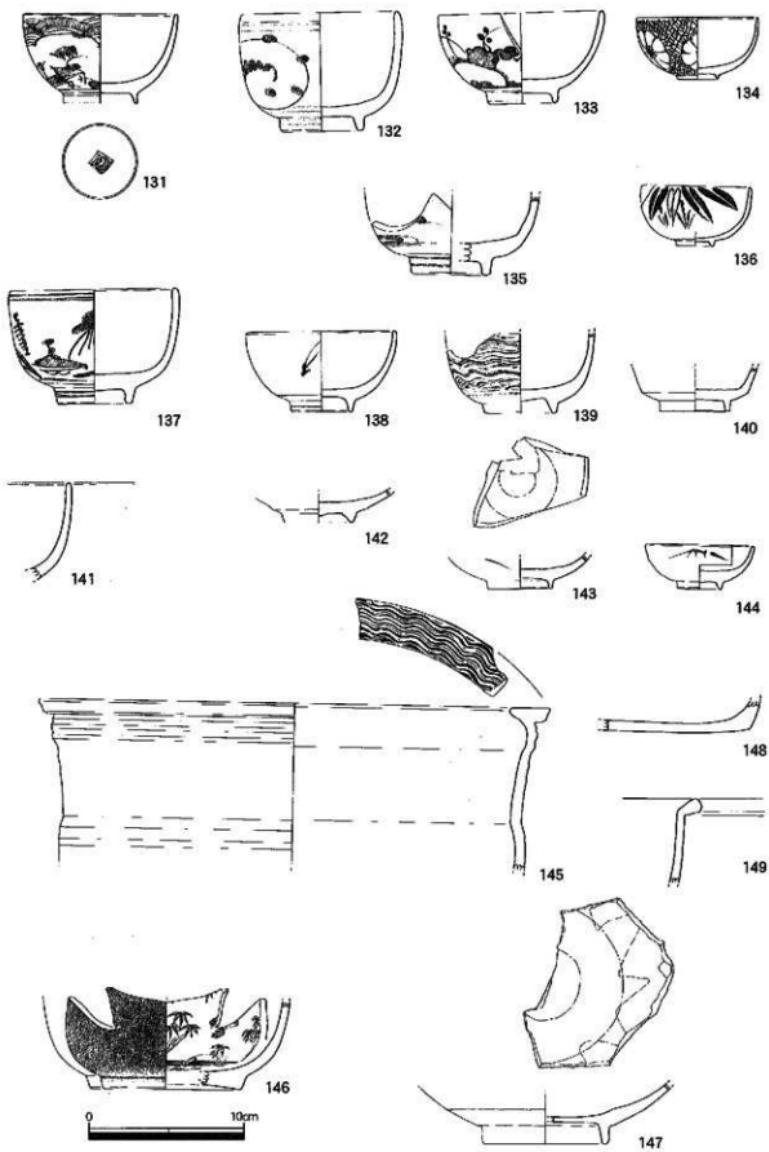
25図 石堂池遺跡出土遺物実測図

26圖 石室地磚鋪出土遺物実測図

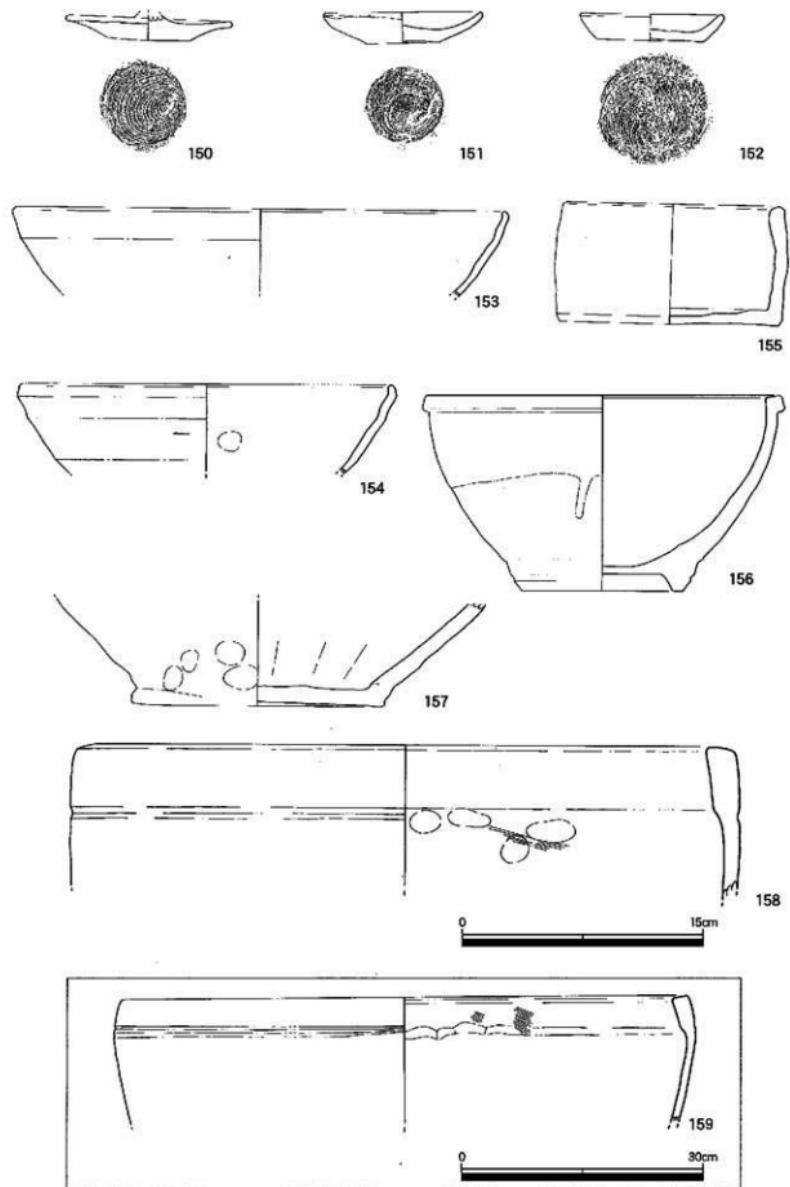




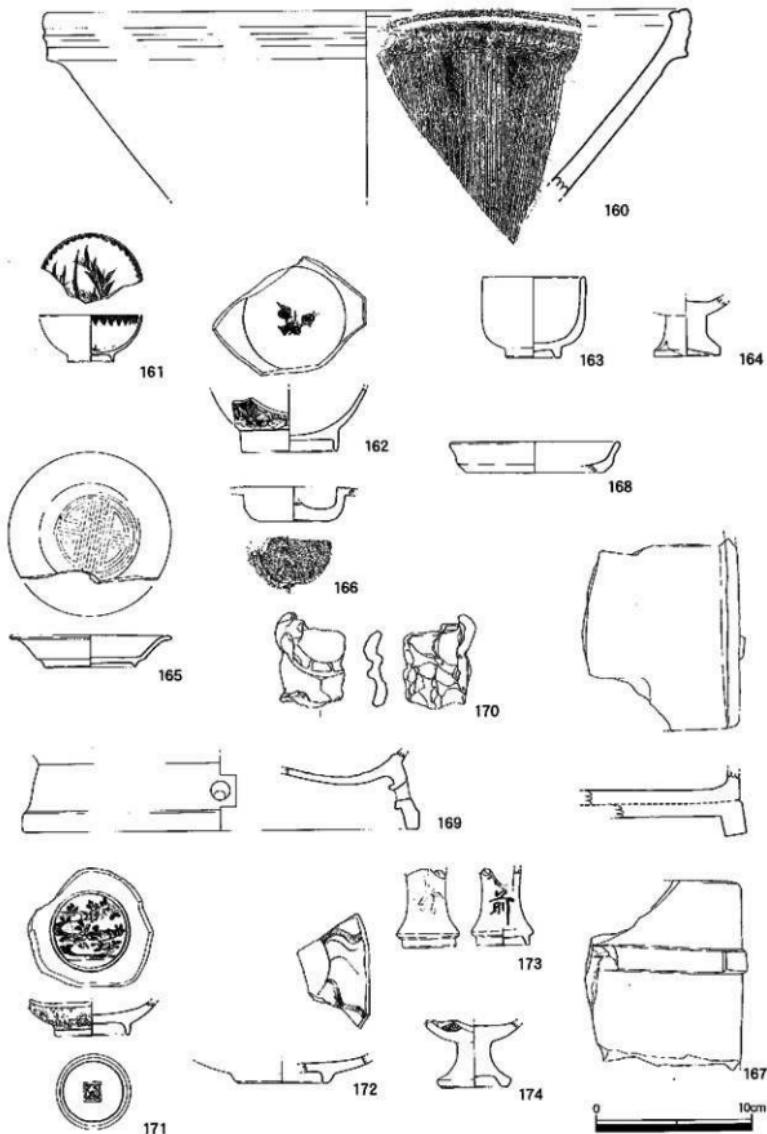
27図 石堂池遺跡出土遺物実測図



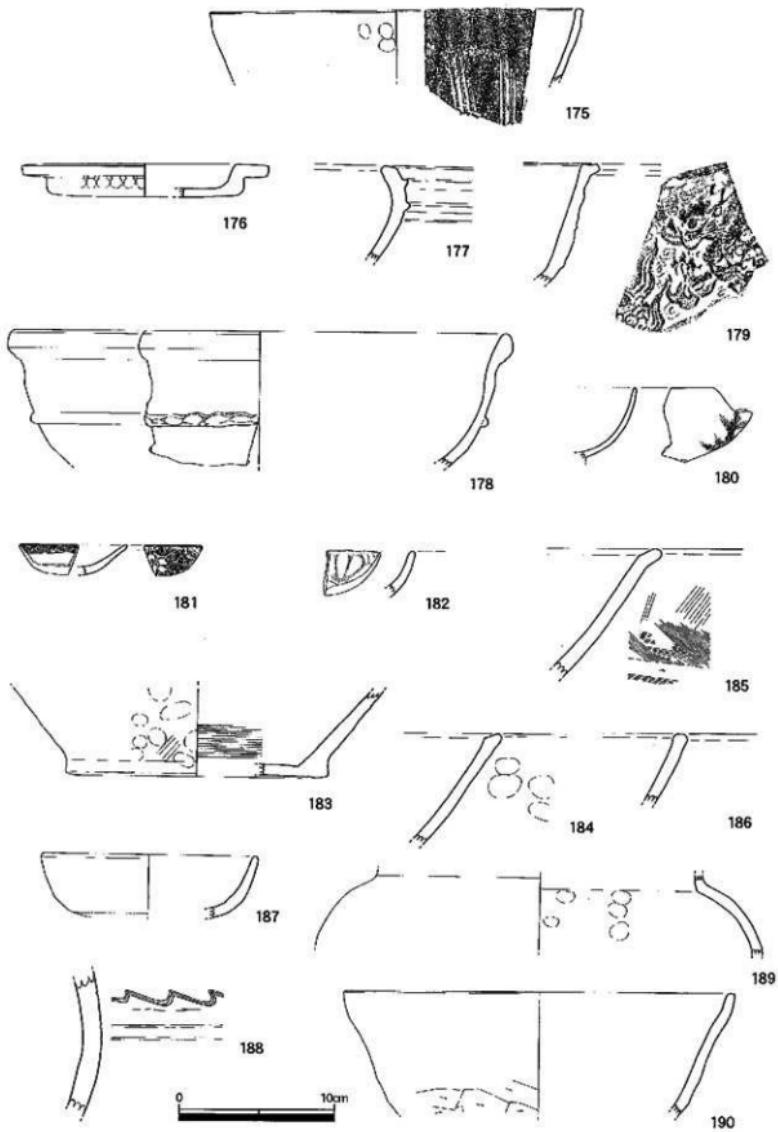
28図 石堂池遺跡出土遺物実測図



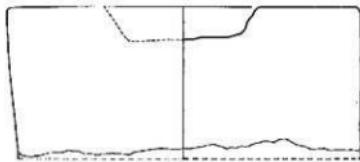
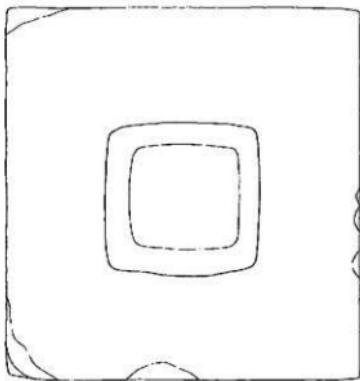
29図 石堂池遺跡出土遺物実測図



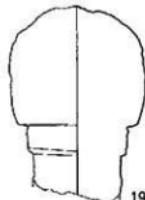
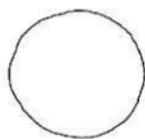
30図 石堂池遺跡出土遺物実測図



31図 石堂池遺跡出土遺物実測図



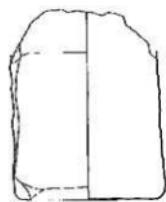
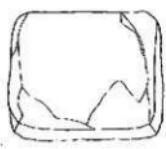
191



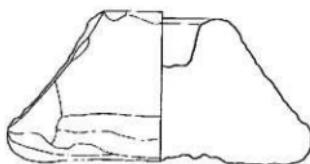
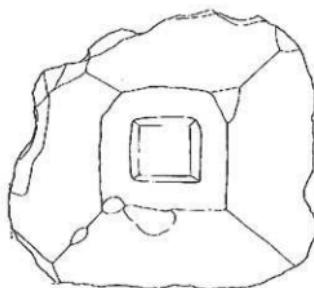
192



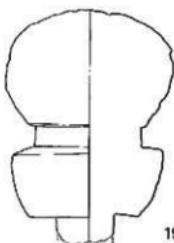
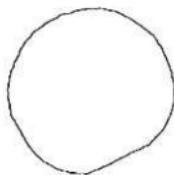
32図 石堂池遺跡出土遺物実測図



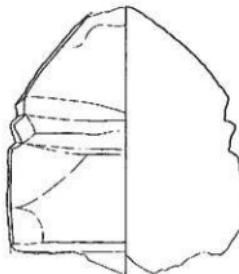
193



194



195



196



33図 石堂池遺跡出土遺物実測図

石堂池遺跡陶器・瓦質土器觀察表

No.	出土遺構	種類	器形	法面(cm)			袋面 文様	特徴	成層 内底	製作場	製作年代	備考	
				口径	最高	底径							
1	SK-1	磁器	里	—	2.5以上	(8.6)	袋付 透明	内: 連續唐草?	—	—	肥前	18C後半	割離體粘着? 蛇ノ目地はざ有(見込み)
2	SK-1	磁器	鏡	(11.6)	5.5以上	—	袋付 透明	外: 梅樹、雷紋	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目地はざ有(見込み)
3	SK-1	磁器	鏡	(10.4)	5.5以上	—	袋付 透明	内: 透明 外: 眼目	—	—	肥前	18C後半	
4	SK-1	磁器	小杯	(8.2)	3.1	(2.2)	袋付 透明	内: 人物	—	—	肥前	18C前半	
5	SK-1	磁器	碗	—	5.0以上	—	袋付 透明	内: 菊葉模 外: 台座及、花	—	—	肥前	18C前半	
13	SK-2	磁器	鏡	—	2.7以上	—	青磁	—	—	—	—	—	
22	SK-2	磁器	鏡	(10.6)	2.7以上	—	袋付 透明	外: 丹経	—	—	肥前	18C後半～ 19C中頃	
26	SK-5	瓦質土器	火鉢	(40.0)	4.8以上	—	—	—	—	—	—	—	
27	SK-5	磁器	鏡	(8.5)	5.8	(4.0)	袋付 透明	外: 花卉	—	—	瀬戸 美濃	1820～ 1880年代	ハリ支え有(見込み)
28	SK-5	磁器	小鏡	(7.6)	3.8	(3.4)	透明	—	口銘	—	肥前	18C後半	
29	SK-5	瓦質土器	—	—	0.8以上	—	—	—	—	—	—	—	
29	SD-1	磁器	鏡?	—	2.4以上	(5.6)	青磁	—	—	—	肥前	18C	
34	SD-1	陶器	鏡	—	3.8以上	(6.0)	透明	—	—	—	肥前	18C後半	
38	SD-1	磁器	鏡	9.5	4.25	3.4	袋付 透明	外: 七宝織紋、風景?	—	—	—	—	
39	SD-1	磁器	鏡	(9.9)	5.16	3.5	袋付 透明	外: 草花?	—	花	肥前	18C後半	
40	SD-1	磁器	鏡	10.4	5.8	(4.4)	袋付 透明	外: 丹経、花	—	花	肥前	18C?	
41	SD-1	陶胎?	鏡	(10.4)	7.0	(4.8)	袋付 透明	外: 草花?	—	—	肥前	18C前半～ 中期	
42	SD-1	磁器	角皿	(7.0)	2.3	(3.4)	袋付 透明	内: 菓	—	菊花	—	—	型打有(内面)
43	SD-1	磁器	角皿	(8.2)	2.45	3.6	白磁	内: 菓	—	菊花	—	—	型打有(内面)
44	SD-1	磁器	鏡	—	5.8以上	—	白磁?	外:	—	—	—	—	
50	SD-3	磁器	鏡?	—	2.5以上	—	白磁	内: 花卉?	—	—	—	—	型打者(内面)
51	SD-3	陶器	鉢	(15.6)	3.0以上	—	白磁 透明	—	—	—	肥前	18C	
52	SD-3	磁器	情面鏡	—	6.7以上	(8.6)	白磁	—	—	—	—	—	
53	SD-3	磁器	瓶	—	8.7以上	—	白磁	—	—	—	—	—	
54	SD-3	磁器	三足付 笠置	—	2.2以上	—	青磁	—	—	—	肥前	18C～ 19C?	
55	SD-3	陶器	鉢	—	6.5以上	—	鐵繪	—	—	—	—	—	
56	SD-3	陶器	不明	—	6.5以上	—	鐵繪	—	—	—	—	—	
57	SD-3	上置	陶器	—	2.3以上	8.3	鐵繪	—	—	—	肥前	1780～ 1820年代	広東流
58	SD-3	陶器	鏡	—	1.5以上	3.7	透明	—	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目地はざ有(見込み)
59	SD-3	陶器	鏡	—	1.8以上	(6.4)	鐵繪	—	—	—	肥前	18C後半	蛇ノ目地はざ有(見込み)
60	SD-3	陶器	鏡?	—	2.4以上	(8.4)	白磁 透明	—	—	—	肥前	18C	
61	SD-3	陶器	鉢	—	8.4以上	—	鐵繪	—	—	塔	18C前半～ 中期		
62	SD-3	陶器	鏡鉢	—	5.8以上	(14.4)	—	—	—	—	肥前	18C	
63	SD-3	陶器	不明	—	3.2以上	—	鐵繪	—	—	—	—	—	
65	SD-3	磁器	鏡	(10.4)	3.8以上	—	袋付 透明	外: 楊柳 漢字「八正西」六	—	—	肥前	18C前半	
66	SD-3	上置	陶器	(12.8)	5.5以上	—	袋付 透明	外: 草花、格子目	—	—	肥前	18C後半	
67	SD-3	下置	陶器	(12.2)	5.15	(5.0)	袋付 透明	内:	—	—	肥前	18C後半	ハリ支え有(見込み)
68	SD-3	磁器	鏡	(10.1)	4.1以上	—	透明	—	口銘	—	—	—	
69	SD-3	磁器	鏡	—	4.2以上	(3.8)	袋付 透明	外: 草花?	—	—	肥前	18C後半	
70	SD-3	磁器	鏡	—	2.5以上	—	袋付 透明	外: 果実? 植物?	—	—	—	—	
71	SD-3	上置	陶器	鏡	—	2.8以上	4.8	袋付 透明	内: 外: 草花?	—	肥前	18C	蛇ノ目地はざ有(見込み)
72	SD-3	磁器	鏡	—	3.1以上	(4.3)	袋付 透明	外: 餃?	—	花?	肥前	18C前半～ 中期	
73	SD-3	磁器	鏡	—	1.5以上	(8.6)	袋付 透明	内:	—	—	肥前	18C末～ 19C中期	
74	SD-3	陶器	鏡?	—	4.4以上	—	袋付 透明	内: 外: 葵?	—	—	肥前	18C後半	
75	SD-3	陶器	鏡	—	5.5以上	—	鐵繪	—	—	肥前	18C後半	底点?	
76	pR12	瓦質土器	鉢	—	9.1以上	—	—	—	—	—	—	—	
77	SK-3	磁器	鏡	(8.6)	5.1	(4.2)	袋付 透明	外: 草花	—	素?	肥前	18C後半	
78	SK-3	磁器	鏡	—	3.5以上	(4.4)	袋付 透明	外: 植物?	—	—	肥前?	18C後半	蛇ノ目地はざ有(見込み) 珍み種類有(見込み)
79	SK-3	磁器	小杯	(8.4)	1.9	(3.0)	袋付 透明	外: 茶?	—	—	肥前	1820～ 1860年代	

石堂池遺跡陶器、瓦質土器観察表

No.	出土遺物	種類	器形	寸法(cm)			形状 文様	特徴	表面 内底	製作地	製作年代	備考	
				口徑	腹深	底径							
80	SK-3	陶器	壺?	—	2.5以上	(1.4)	絞付 白泥?	—	—	—	18C		
81	SK-5 SK-5下層	陶器?	壺	(16.0)	7.2	(4.0)	絞付 白泥?	外:風景	—	肥前	1620~ 1860年代		
82	SK-4	磁器	蓋	8.5	2.7	—	絞付 透明	内:青	絞付 円形?	肥前	1620~ 1860年代		
83	SK-4	磁器	蓋	(9.7)	1.7以上	—	絞付 透明	外:梅樹	—	肥西?	18C後半		
84	SK-4	陶器	蓋	6.8	2.85	—	透明	—	—	肥西?	18C		
85	SK-4	磁器	瓶	(12.8)	2.95	(0.0)	絞付 透明	内:植物紋らし 外:梅蘭竹菊	口縁	—	肥前	18C後半	
86	SK-4	磁器	高笠碗	(5.0)	5.85	(4.0)	絞付 透明	内:瑠璃青花	—	—	肥前	18C	
87	SK-4	磁器	碗	—	3.0以上	(2.6)	青磁	—	—	肥前	18C		
88	SK-7	磁器	碗	(12.0)	4.45以上	—	絞付 透明	外:丸	—	—	肥前	18C後半	
89	SK-7	陶器	碗	(14.3)	3.8以上	—	絞付 透明	内:植物、格子	—	—	肥前	18C中葉	
90	SK-7	瓦質土器	不明	(36.0)	6.55	(25.8)	—	—	—	不明	不明	スヌ付着(内面)	
91	SK-7	瓦質土器	不明	—	—	—	—	—	—	—	—		
92	SK-7	磁器	皿	—	3.8以上	—	白磁	—	—	—	—	—	
94	SK-7	磁器	仏壇器	—	3.7以上	(3.6)	透明	—	—	肥前	18C後半~ 19C中葉		
95	SK-7	陶器	蓋	(8.7)	2.3以上	—	透明	—	イッヂン 掛け	—	蘭酒	18C後半	
96	SK-7	陶器	急須の口	—	7.2以上	—	鉢輪	—	—	—	—	—	
97	SK-7	磁器	情型碗	—	7.1以上	—	色絵 内:梅?菊花?	—	—	—	—	—	
98	SK-11	瓦質土器	鉢?	—	6.1以上	—	—	—	—	—	—	18C?	スヌ付着(一部外側)
99	SK-11	瓦質土器	鉢?	—	4.5以上	—	—	—	—	—	—	18C?	
100	SK-11	瓦質土器	火鉢	—	6.7以上	—	—	—	—	—	—	—	
103	SK-11	陶器	碗	—	2.4以上	4.7	白磁?	—	—	—	—	—	
104	SK-11	磁器	碗	—	4.8以上	—	茎付 透明	内: 外:風景	—	—	—	—	
105	SK-11	瓦質土器	茶蓋?	—	8.5以上	—	—	—	—	—	—	—	
107	SK-13	陶器	竹平鍋?	—	4.8以上	—	透明	—	—	—	—	—	スヌ付着(一部外側)
108	SK-14	陶器	碗	(8.1)	5.85以上	—	鉢輪	—	—	—	—	—	
109	SK-14	磁器	碗	(9.9)	5.0	4.4	絞付 透明	外:牧草	—	大型 鉢輪	肥前	1660~ 1740年代	
110	SK-14	陶器	蓋?	(7.0)	5.5以上	—	鉢輪	—	—	—	—	—	
111	SK-14	磁器	蓋	(8.2)	2.1以上	—	絞付 透明	外:松樹	—	—	肥前	1660~ 1680年代	
113	SK-15	陶器	碗	(8.4)	8.7	(4.2)	白泥 内: 外:刷毛目	—	—	肥前	170後半~ 18C前半		
114	SK-15	陶器	碗	(9.0)	5.75	3.4	透明	外:筆	—	—	蘭西	18C後半	
115	SK-15	陶器	碗	(9.0)	4.9	(3.6)	絞付 透明	外:繪物?	—	—	肥前	170後半~ 18C?	
116	SK-15	陶器	碗	—	1.8以上	4.4	絞付 透明	外:植物?	—	—	肥前	170後半~ 18C?	
117	SK-15	磁器	碗	—	3.2以上	(3.1)	白泥 透明	—	—	—	肥前	180後半?	
118	SK-15	磁器	碗	—	2.2以上	3.8	絞付 透明	外:	—	大型 鉢輪	肥前	180後半?	
119	SK-15	磁器	碗	(15.1)	4.7以上	—	青磁	—	—	—	肥前	1820~ 1860年代	
120	SK-15	陶器	鉢?	—	2.2以上	(4.9)	茎付 透明	内:草花?	—	—	—	—	砂目有(見込み) 鉢/目輪有(見込み)
121	SK-15	磁器	碗?	—	1.8以上	4.8	絞付 透明	内:唐草?	—	—	肥前	18C?	鉢/目輪有(見込み)
122	SK-15	磁器	蓋	—	4.2以上	(8.0)	絞付 透明	内:花虫(英吉利)? 外:連続草葉	—	泡足 五弁花	肥前	1680~ 1700年代	
123	SK-15	瓦質土器	火鉢	—	6.3以上	—	—	—	—	—	—	—	庄直?有(外側)
125	SK-15	陶器	壺	—	4.1以上	—	鉢輪	—	—	—	肥前	170後半~ 18C前半?	
126	SK-15	陶器	瓶?	—	6.1以上	—	鉢輪	—	—	—	—	—	堀?
127	SK-15	陶器	壺?	—	7.0以上	—	鉢輪	—	—	—	肥前	180前半~ 中葉?	
128	SK-15	陶器	瓶	—	6.6以上	—	白泥 透明	外:網目	—	—	肥前	18C後半	
129	SK-15	陶器	瓶	—	9.8以上	—	鉢輪	—	—	—	九州	180後半	
130	SK-15	磁器	壺?	—	1.7以上	11.6	透明	—	—	—	—	—	
131	SE-2 下層	磁器	碗	(8.3)	8.45	(4.4)	絞付 透明	外:海藻鳳凰?	—	湯桶?	肥前	18C後半	
132	SE-2 下層	磁器	碗	(9.0)	7.45	(5.0)	絞付 透明	外:唐草	—	—	肥前	18C前半~ 中葉	
133	SE-2 下層	磁器	碗	10.2	5.5	4.1	絞付 透明	外:梅蘭、雪輪	—	—	肥前	18C後半	
134	SE-2 下層	磁器	碗	(7.5)	3.9	(2.5)	絞付 透明	外:水瓶蛇文? 内:梅花紋	—	—	肥前	18C後半	

石堂遺跡陶磁器、瓦質土器観察表

No.	出土遺物	種類	器種	法身(cent)			装飾 文様	特徴	底面 内張	製作地	製作年代	備考
				口径	側高	底径						
135	SE-2 下層	磁器	碗	—	4.6以上	(4.3)	柾村 透明	外:樹葉?	—	—	—	—
136	SE-2	磁器	碗	(7.0)	3.8	(4.5)	柾村 透明	外:葉	—	—	関西	18C後半
137	SE-2 下層	陶器	碗	10.6	7.5	4.8	柾村 透明	外:鳳凰	—	—	肥前	16C前半~ 19C前半
138	SE-2 上層	磁器	碗	(9.2)	5.05	3.7	柾村 透明	外:植物?	—	—	—	—
139	SE-2 上層	陶器	碗	—	5.1以上	(4.4)	白泥 透明	外:網毛目	—	—	肥前	17C後半~ 18C前半
140	SE-2 上層	磁器	碗	—	2.6以上	(4.1)	透明	—	—	—	—	—
141	SE-2 下層	陶器	碗	—	6.1以上	—	透明	—	—	—	—	—
142	SE-2 下層	陶器	碗	—	1.8以上	4.4	透明	—	—	—	—	蛇/目物はざ有(見込み)
143	SE-2 上層	磁器	碗	—	1.9以上	4.1	柾村 透明	外:植物?	—	—	肥前?	18C?
144	SE-2 上層	磁器	紅皿	6.5	2.8	2.6	柾村 透明	外:網毛目	—	—	肥前	18C後半
145	SE-2 下層	陶器	壺?	(33.1)	10.6以上	—	鉢輪部:刷毛目	—	—	—	—	—
146	SE-2 上層	磁器	壺?	—	5.4以上	(9.2)	柾村 透明	内:徑	—	—	—	蛇/目台
147	SE-2 上層	陶器	壺	—	3.9以上	(8.0)	透明 白泥 透明	外: 内:	—	—	—	白化粧による文様(内面 蛇/目物はざ有(見込み))
148	SE-2 下層	瓦質土器	—	—	2.0以上	—	—	—	—	—	—	—
150	SE-2 下層	陶器	壺	9.9	1.6以上	5.0	透明	—	—	糸切り	関西?	18C後半?
151	SE-2 下層	陶器	火鉢?	9.1	1.85	4.3	—	—	—	糸切り	肥前	17C中頃~ 後半
155	SE-2 下層	陶器	火鉢?	13.2	7.5	13.7	鉢輪	—	—	—	關前or 丹波	18C
156	SE-2 上層	陶器	鉢	(22.0)	12.1	(16.0)	白泥 透明	—	—	—	肥前	17C後半~ 18C初半
160	SE-2 上層	陶器	鐵鉢	(40.0)	11.6以上	—	鉢輪	—	—	—	堺	18C初半~ 中頃
161	集石1	磁器	小壺	(6.1)	2.75	(4.7)	柾村 透明	内:草花、雨取り脚	—	—	肥前	1680~ 1700年代
162	集石1	磁器	碗	—	4.0以上	(6.0)	柾村 透明	外:花唐草?	—	—	肥前	1680~ 1700年代
163	集石1	陶器	碗	6.3	5.2	3.4	透明	—	—	—	肥前	1680~ 1700年代
164	集石1	磁器	仏鼻器	—	3.1以上	4.0	白磁	—	—	—	肥前	18C後半~ 19C初頃
165	集石1	磁器	蓋(舟文組)	9.6	2.0	5.5	白磁	—	—	—	湖戸	190C~ 明治
166	集石1	陶器	壺	—	2.1以上	(4.2)	鉢輪	—	—	—	鹿津系	17C?
169	集石1	瓦質土器	火鉢?	—	4.7以上	(24.5)	—	—	—	—	—	穿孔1つ有
171	表尾	磁器	碗	—	1.9以上	(4.8)	柾村 透明	外:牡丹唐草	—	—	肥前	1680~ 1740年代
172	表尾	磁器	壺	—	1.4以上	(5.8)	柾村 透明	内:施り花?	—	—	肥前	1680~ 1740年代
173	表尾	磁器	仏鼻器	—	5.0以上	3.4	柾村 透明	外:竹笹、「O前」	—	—	肥前	18C後半~ 19C初頃
174	表尾	磁器	仏鼻器	—	3.7以上	4.0	柾村 透明	外:源氏香、丸?	—	—	肥前	180後半
175	表尾	瓦質土器	鐵鉢	(35.2)	6.5以上	—	鉢輪	—	—	—	肥前?	—
176	表尾	瓦質土器	蓋?	(10.8)	2.0	(11.2)	—	—	—	九州?	18C後半?	—
180	pit2	磁器	碗	—	4.3以上	—	柾村 透明	外:若松	—	—	肥前	1680~ 1740年代
181	pit4	磁器	蓋	—	1.9以上	—	柾村 透明	内: 外:裏花	—	—	肥前	1680~ 1740年代
182	pit4	磁器	壺?	—	3.0以上	—	青磁	内:花卉?	—	—	—	肥前? (有(内面))
184	pit10	瓦質土器	鉢	—	6.8以上	—	—	—	—	—	—	—
185	pit16	瓦質土器	鉢	—	4.5以上	—	—	—	—	—	—	—
186	pit16	瓦質土器	鉢	—	7.9以上	—	—	—	—	—	肥前?	18C後半?
187	pit22	陶器	碗	(13.3)	3.9以上	—	不明	—	—	—	—	—
188	pit22	陶器	壺?	—	8.8以上	—	鉢輪	外:波状文	—	—	—	—
189	pit24	瓦質土器	蓋?	—	4.9以上	—	—	—	—	—	—	—

石堂寺道跡土器観察表

No.	出土位置	種類	基盤	口径 深さ	底面	色調	調査	備考	
6	SD-2 須恵器	釜	—	7.1以上	内: 黄褐色 外: 青灰色	内: 回転式コナデ 外: 回転式コナデ	波状文有(一部外側)		
7	SH-1 須恵器	坪	12.3	4.7	9.1	内: 深灰色 外: 深灰褐色	回転式コナデ		
8	SH-1 土師質土器	束	—	—	暗褐色	不明	口縁部にさきりほどのキ		
9	SH-1 土師質土器	組	15.7	2.1	13.4	褐色	内: 回転式コナデ、ナデ 外: ナデ		
10	SH-1 土師質土器	束	19.2	10.4	4.2	内: 淡褐色 外: 淡褐色	内: 回転式 外: 回転式、ハケ目	スヌ付兼(底部)	
11	SH-1 土師質土器	束	—	—	4.8	褐色	内: ナデ 外: 淡褐色	底土に黒曜石	
14	SK-2 土師質土器	束	(11.7)	1.8以上	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ 外: ナデ			
15	SK-2 土師質土器	火鉢?	—	8.0以上	内: 灰褐色	内: ナデ 外: ナデ	入ス付有(内面)		
16	SK-2 土師質土器	—	5.0以上	—	内: 香椎山二重褐色	内: ナデ 外: ナデ			
17	SK-2 土師質土器	—	4.1以上	—	内: 深褐色	内: ナデ、文様	青文有(一部外側)		
18	SK-2 土師質土器	—	5.5以上	—	内: 深褐色	内: ナデ、ヘラナデ 外: ヨナデ、ヘラナデ			
19	SK-2 土師質土器	鉢?	(22.3)	6.2以上	内: 淡褐色 外: 淡褐色	内: ナデ、瓦沟 外: ナデ			
20	SK-2 土師質土器	小皿	—	0.7以上	(7.2)	内: 白色 外: 灰色	内: ナデ 外: ナデ	糸切刃有(底部)	
21	SK-2 土師質土器	小皿	(8.3)	1.1	(2.4)	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ、ヨコナデ 外: ヨナデ	糸切刃有(底部)	
24	SK-5 土師質土器	鉢?	—	4.4以上	内: 深褐色	内: ナデ、毛打、瓦沟子手			
25	SK-5 土師質土器	鉢?	(25.5)	5.1以上	内: にい黄褐色	内: 回転式コナデ、ナデ 外: 回転式コナデ、ナデ			
30	SD-1 下層	环?	—	2.0以上	内: 灰褐色、灰色 外: 灰褐色、灰色	内: ナデ 外: ナデ			
31	SD-1 須恵器	鉢?	—	4.0以上	内: 黄褐色、淡灰褐色、灰白色 外: 灰褐色、灰白色	内: ナデ、ヨコナデ 外: ヨナデ、瓦沟 内: ナデ、瓦沟			
32	SD-1 土師質土器	—	—	4.0以上	内: 灰褐色	内: ナデ、瓦沟 外: ヨナデ、ヘラケズリ			
35	SD-1 須恵器	束	—	4.3以上	内: 深褐色	内: ナデ			
36	SD-1 須恵器	束	(18.4)	3.7以上	内: 深褐色	内: 回転式コナデ	波状文有(一部外側)		
37	SD-1 2L	土師質土器	鉢?	(26.0)	8.2以上	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ 外: ナデ	全体にスヌ付有(外側)	
45	SD-3 下層	土師質土器	束?	—	8.7以上	内: 淡褐色	内: ヨコナデ、毛打 外: ヨナデ		
48	SD-3 下層	土師質土器	瓶炉?	—	2.8以上	内: にい灰褐色	内: ナデ	穿孔有	
47	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	3.8以上	内: 灰褐色	内: ナデ、毛打 外: ナデ		
48	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	4.9以上	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ、瓦沟 外: ナデ		
49	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	4.5以上	内: 灰褐色	内: ナデ、ヨコナデ 外: ハマナデ、ヨナデ		
55	SD-3 下層	土師質土器	鉢?	—	1.5以上	内: 灰色 外: 灰色	内: ナデ、毛打 外: ナデ		
88	SK-6 土師質土器	鉢?	—	6.05以上	(18.4)	内: 灰褐色 外: にい灰褐色、淡灰褐色	内: ナデ、毛打 外: ヨナデ、瓦沟、回転ヘラケズリ		
92	SK-7 土師質土器	火鉢?	(18.4)	8.9	(13.9)	内: にい灰褐色 外: にい灰褐色、淡灰褐色	内: ナデ 外: 回転ナデ、ナデ		
101	SK-8 SK-25	土師質土器	大腹?	(68.4)	21.6以上	内: 明褐色、淡黄褐色 外: 明褐色、淡黄褐色	内: ナデ、ハケ目、あて具痕 外: ナデ、瓦沟		
102	SK-11 土師質土器	鉢?	—	6.5以上	内: 灰褐色	内: ナデ			
106	SK-12 土師質土器	束?	—	5.1以上	17.6	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ 外: ナデ、糸切有		
112	SK-14 土師質土器	大腹?	—	33.8以上	18.1	内: にい黄褐色 外: にい灰褐色、淡灰褐色	内: ナデ、タガキ、ハケ目 外: ナデ、糸切有、新狀正直		
124	SK-15 土師質土器	鉢?	—	7.0以上	—	内: にい灰褐色 外: にい灰褐色、灰色	内: ナデ 外: ヨナデ、ヘラナデ		
149	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	—	5.5以上	内: にい黄褐色 外: にい黄褐色	内: ナデ、ヨナデ、毛打 外: ヨナデ、毛打、ヘラケズリ		
152	SE-2 下層	土師質土器	小皿	8.7	1.7	内: 灰褐色	内: ナデ 外: ナデ	糸切刃有(底部)	
153	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	(28.0)	8.2以上	内: にい黄褐色 外: にい灰褐色	内: ナデ 外: ヨナデ、ヘラケズリ		
154	SE-2 下層	土師質土器	鉢?	(22.2)	5.4以上	内: にい黄褐色	内: ナデ、ヨコナデ、糸切有 外: ヨナデ、ヘラケズリ	スヌ付沿(外側)	
157	SE-2 下層	土師質土器	—	8.4以上	15.6	内: 淡褐色	内: ナデ、糸切有、工具痕 外: ナデ、毛打、毛打		
158	SE-2 下層	土師質土器	束	(37.0)	8.8以上	内: 淡褐色 外: 淡灰褐色	内: ナデ、ハケ目、糸切有 外: ナデ、吹拂		
159	SE-2 下層	土師質土器	大腹?	(68.0)	16.4以上	内: にい黄褐色 外: にい灰褐色	内: ナデ、ハケ目、あて具痕 外: ナデ、吹拂		
167	麻石?	土師質土器	束?	—	4.0以上	内: にい灰褐色 外: にい灰褐色	内: ナデ 外: 工具痕		
168	麻石?	土師質土器	小皿	(10.1)	1.85	(8.4)	内: にい灰褐色 外: にい灰褐色	内: ナデ 外: ナデ	
177	表揮	土師質土器	鉢?	—	5.4以上	内: にい黄褐色 外: にい灰褐色	内: ナデ、ヨコナデ 外: ヨナデ、瓦沟		
178	表揮	土師質土器	鉢?	(30.5)	8.3以上	内: 淡褐色 外: 淡灰褐色	内: ナデ 外: ヨナデ、ヘラケズリ	糸切刃有(一部内面)	
179	表揮	土師質土器	—	7.8以上	—	内: 灰褐色 外: 灰褐色	内: ナデ 外: 文様	文様有(露窓、等)	
183	pH5	土師質土器	鉢?	—	5.3以上	(16.0)	内: 淡褐色、格色 外: にい灰褐色	内: ナデ、ハケ目 外: ナデ、ハケ目、糸切有	
190	pH24	土師質土器	鉢?	(23.0)	7.7以上	内: 淡褐色、褐灰色 外: 褐灰色、黑褐色	内: ナデ 外: ナデ、ヨコナデ、ヘラケズリ	スヌ付沿(外側)	

石堂池遺跡土製品・土人形觀察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)			文様	年代	備考
				口径	最高	底径			
84	SH-3下層	土製品	—	—	4.55	—	—	—	無縫
170	黑石1	土人形	—	6.1以上	—	—	—	—	無縫

石堂池遺跡石器觀察表

No.	出土遺構	器種	法量(cm)			石材	備考
			頭長	頭長	厚さ		
12	SH-1 P-14	鷗石	4.3	3.45	3.4	53.9	—

石堂池遺跡墓石觀察表

No.	出土遺構	器種	覆面寸法(cm)		笠寸法(cm)		圓筒寸法(cm)		谷底寸法(cm)		牌身寸法(cm)		石材	備考
			高さ	幅	幅	高さ	幅	高さ	幅	高さ	幅	高さ		
181	黑石1	石鏡	—	—	—	—	—	—	38.9	38.5	15.9	—	—	安山岩
192	黑石1	五輪鏡	19.8以上	13.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩
193	黑石2	角鏡鏡?	—	—	—	—	—	—	—	—	19.4以上	15.8	—	安山岩
194	黑石2	五輪鏡	—	—	31.5	28.6	15.5	—	—	—	—	—	—	安山岩
195	黑石2	五輪鏡	23.5以上	17.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩
196	黑石2	收納	—	—	—	—	—	24.7	27.5	—	—	—	—	安山岩

石堂池遺跡銅錢觀察表

No.	出土遺構	器種	法量(cm)	製作地	製作年代	備考
23	SK-2	銅錢	—	—	17C後半～18C(1648年以前)	新宮水道室

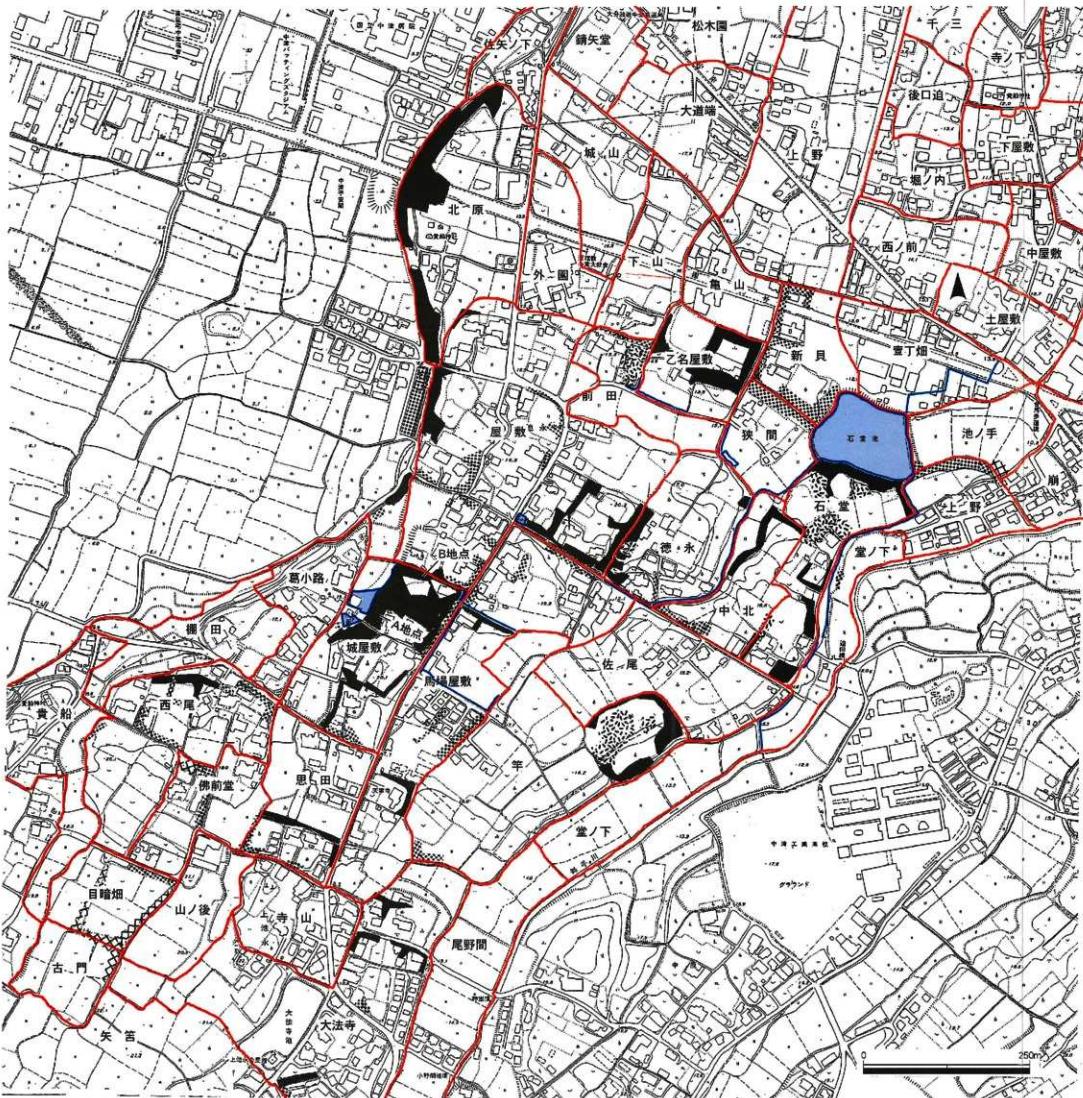
第4章 小 結

今回の発掘調査の結果、石堂池遺跡は古代～近世に至る複合遺跡であることが明らかになった。古代の遺構は、竪穴住居、ピット、土壙であった。2メートルで検出された竪穴住居の東側は西側に比べ30cm程レベルが低い。後世に削られたものと推測される。石堂池遺跡周辺で調査が行われた古代遺跡は原遺跡が周知される。原遺跡は7世紀前半の竪穴住居、掘立柱建物、溝、土壙が検出されている。石堂池遺跡の竪穴住居は8世紀前半のものと考えられ時期差が生じる。石堂池遺跡と原遺跡の中間に上如水遺跡が立地する。上如水遺跡は発掘調査が行われていないが、古代の遺物包蔵地として周知される。石堂池遺跡と上如水遺跡との間に谷状の地形があり古代の遺跡は台地上に形成されたものと考えられる。

中世の遺構は二重の塙に囲まれ土壙を有する居館が注目された。塙は2基とも幅、深さ、形状が類似し中世～近世の遺物が検出された。塙が形成された時期は16世紀後半になるものと思われる。また下層から19世紀代の遺物が検出され、この時代まで開いていたと考えられる。土壙はセットとしてとらえられこの時代から今日まで残ったものである。今回の調査を行った後、石堂池遺跡周辺が中世の景観を残すことが明らかになった。34図は石堂池遺跡周辺の地図を色分けし表したものである。地図は明治21年の字図をもとにしたものである。色の濃い部分は明治の地目で山地、藪と表記され、現在もその地形を残すものである。また水玉の部分は明治の地目で山地、藪と表記されていたが現在その地形が残らないものである。まず今回の調査区で、色の濃い部分は明治の地目で山地と表記されていた。調査時に平板測量した土壙と明治21年の地目が重なることが明らかになった。ゴマ粒状に表記したのは宅地跡である。土壙の内側で検出された掘立柱建物、土壙などの位置とも重なる。石堂池周辺でも土壙が方形に区画をなし宅地を囲む地点が確認できる。また岡の赤線は小字の界を表記したものである。乙女屋敷、屋敷、城屋敷、馬場屋敷など小字からも居館の存在が推測される。2001年に報告された「長者屋敷遺跡」（中津市教育委員会）のなかで八ツ並城周辺の地目が表記されている。ここで八ツ並城周辺と石堂池遺跡周辺の共通点を挙げてみる。

- * 台地の西側は落ち台地との比高差が生じる。
- * 字界いと土壙の位置が重なる。
- * 集落への入り口の道が一度、鍵の手状に曲げられる。
- * 屋敷の方形区画の高まりが階段状に連続する。

以上のことから石堂池遺跡周辺で中世城館の存在が推測される。写真2と写真3は字名の城屋敷の一部を撮影したものである。写真2（A地点）は現在、岩宮神社の敷地裏側にあたる部分である。この地点は雜木が生い茂る。写真では明確に見ることができないが溝状の掘り込みが確認された。溝は幅約3mほどである。写真3（B地点）は土壙と思われるものを撮影したものである。高さは約2.5mほどである。今回、明治の地目を現在の地図に写しこみ確認調査を行ったものの中で一番規模の大きなもの的一群である。中津市教育委員会ではこの周辺を池永城跡として周知している。「下毛郡誌」に池永城主、池永左馬頭重則は天正16年3月10日池永一族、大貞神社神官、社僧な



34図 石堂池遺跡周辺地図

どを加え850余名、黒田軍勢3千余名を相手に戦った。しかし多勢に叶わず重則は一族30人余りと城に火を放ち自害したと記される。

「長者屋敷遺跡」の報告で八ツ並城跡を周辺の集落とまとめてとらえている。池永城跡も城屋敷を中心とし周辺の土塁や壕を有する方形区画は、セットとし考えられるものであろう。石堂池遺跡はこの集落の一部に位置づけられるものであろう。石堂池遺跡は中世以降、江戸中期～明治末期まで、北原人形芝居や歌舞伎役者の人たちの屋敷として使用され、近世の遺構を残す。

今回、出土遺物の検討を行ってなくまとめとして不十分なものとなった。筆者の力不足であり今後に課題を残すものである。



写真2 A地点

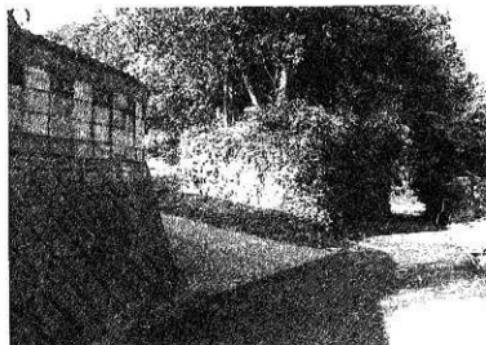
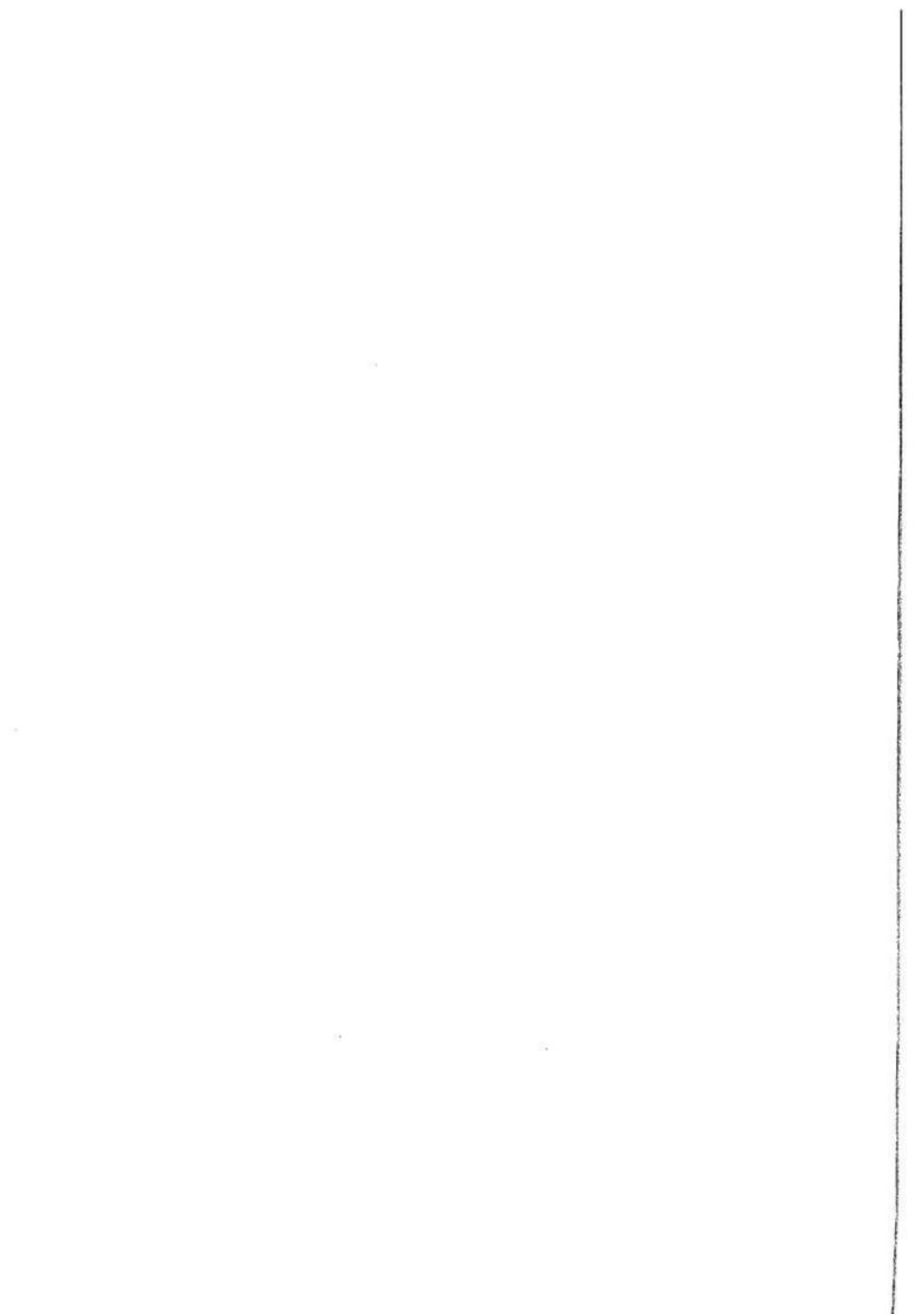


写真3 B地点

参考文献

- 大分県教育委員会 「府内城三ノ丸遺跡」 大分県共同庁舎（仮称）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 1993
- 私立三余女学校 「下毛郡史」 1912
- 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 「弥勒寺」 1989
- 宇佐市教育委員会 「下林遺跡W区」 一般国道10号宇佐道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 1995
- 中津市教育委員会 「原遺跡」 中津市文化財報告書第14集 1993
- 中津市教育委員会 「棒垣遺跡ホヤ池窯跡」 中津市文化財報告書第15集 1994
- 中津市教育委員会 「犬丸川流域遺跡群」 中津市文化財報告書第19集 1997
- 中津市教育委員会 「大悟法地区条里跡、福島遺跡東入垣地区、長者屋敷遺跡」 中津市文化財報告書第25集 2001
- 中津市教育委員会 「長者屋敷遺跡」 中津市文化財報告書第26集 2001

写 真 図 版



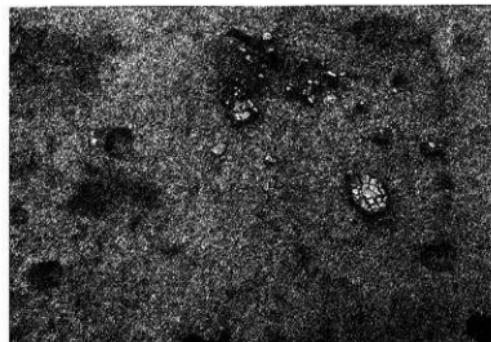
图版 1



1区発掘前風景



発掘風景



SH - 1

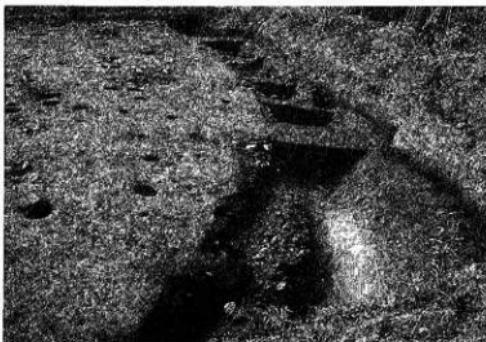
図版 2



2区東側から



2区から3区を望む



SD - 1

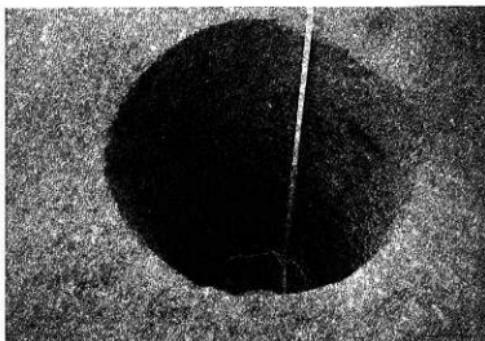
図版 3



1区北側より



SD - 3、SD - 5、SD - 6、SD - 1



SE - 5

図版 4



土壠 2

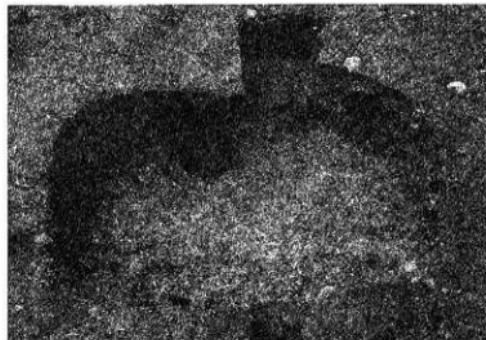


土壠 2、SD - 3



土壠 2、SD - 1

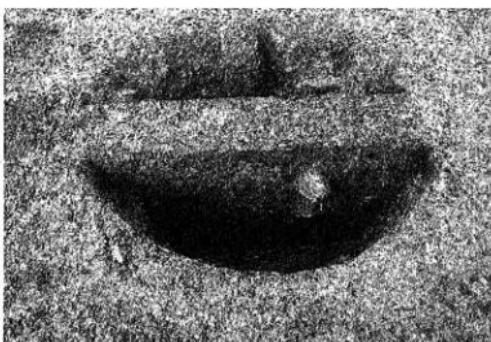
図版 5



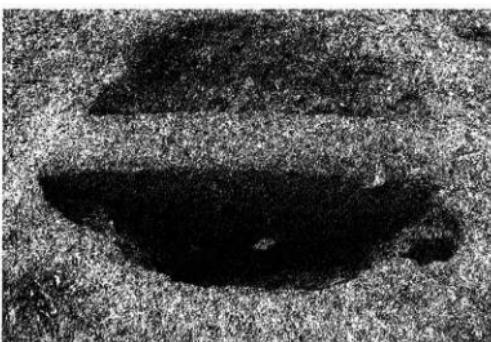
図版 6



SK - 7

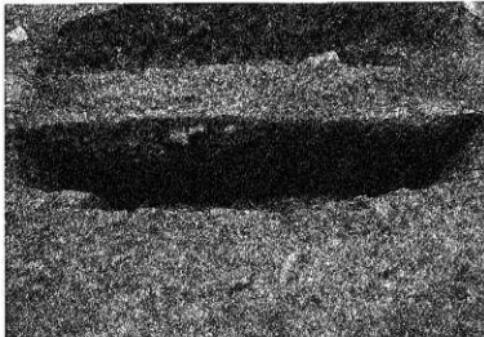


SK - 8

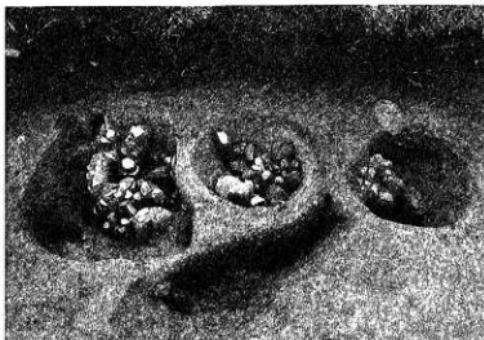


SK - 9

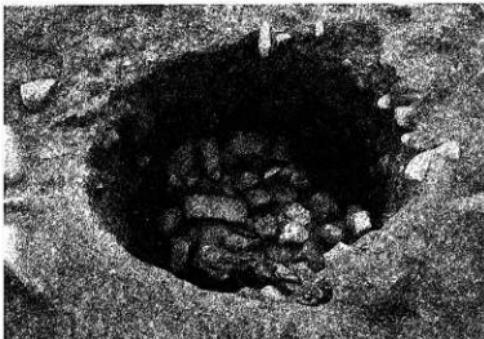
图版 7



SK - 12

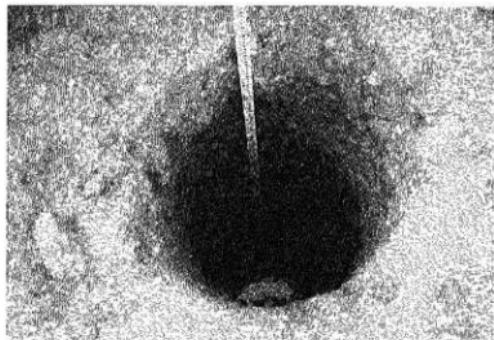


SK - 15, 14, 13, 16

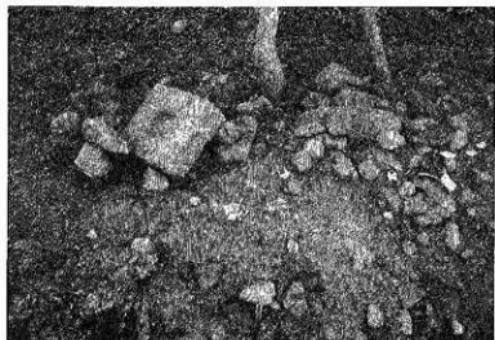


SE - 3

图版 8



SE - 3

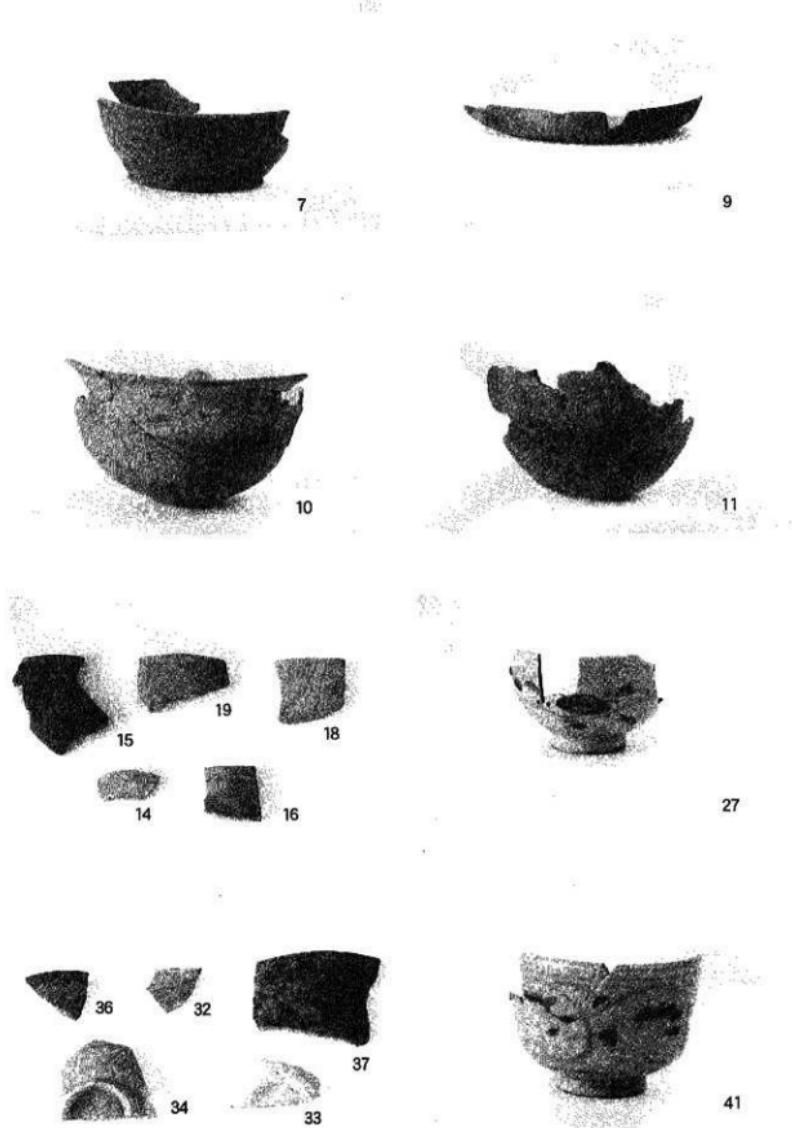


集石遺構 1

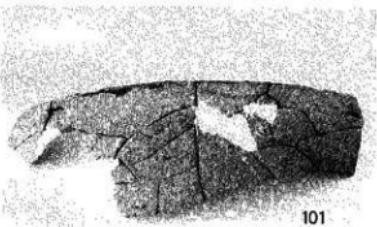
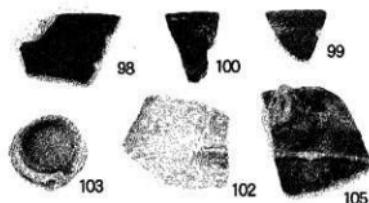
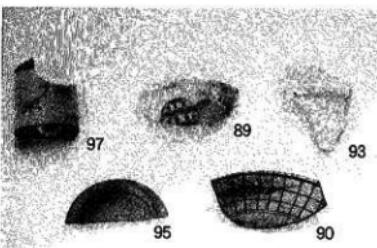
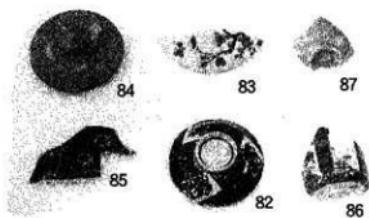
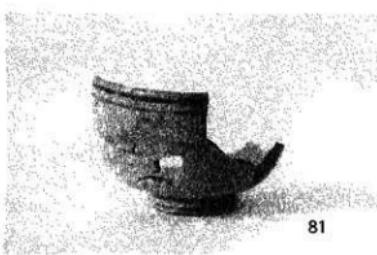
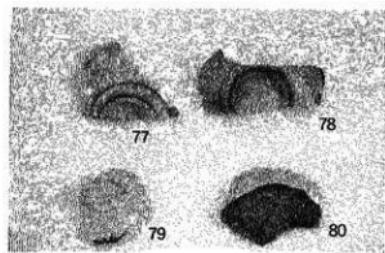
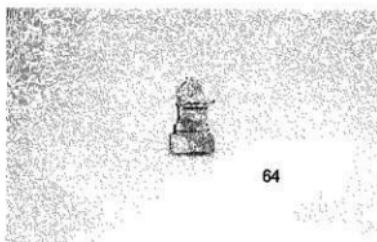
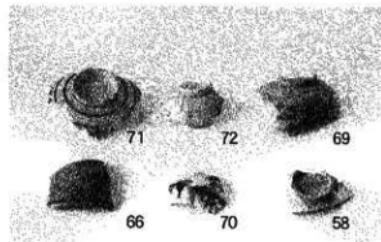


集石遺構 2

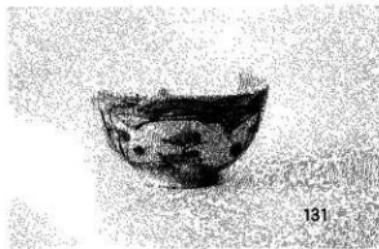
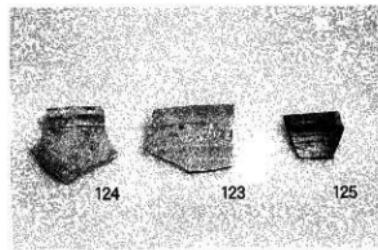
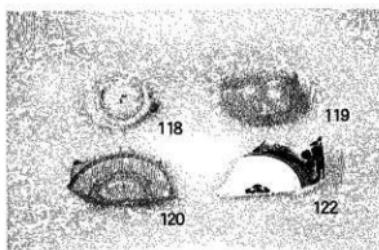
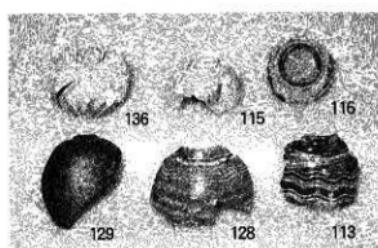
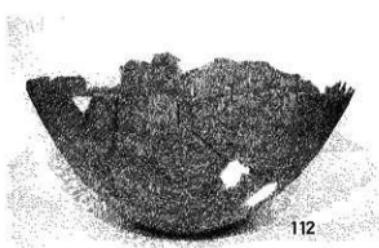
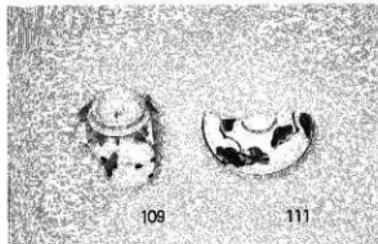
図版 9



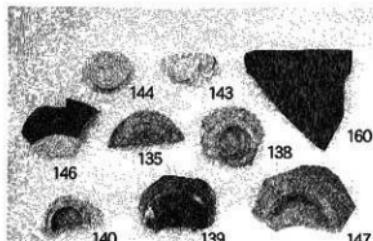
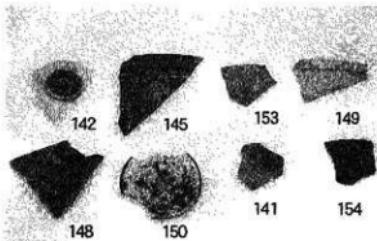
図版 10



图版 11



図版 12



151



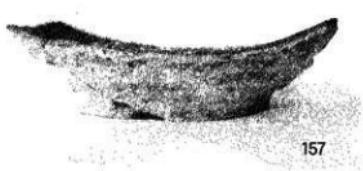
152



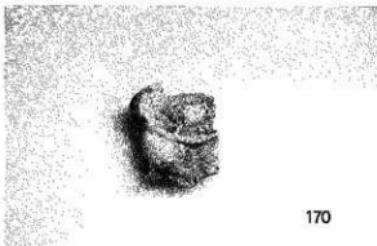
155



156

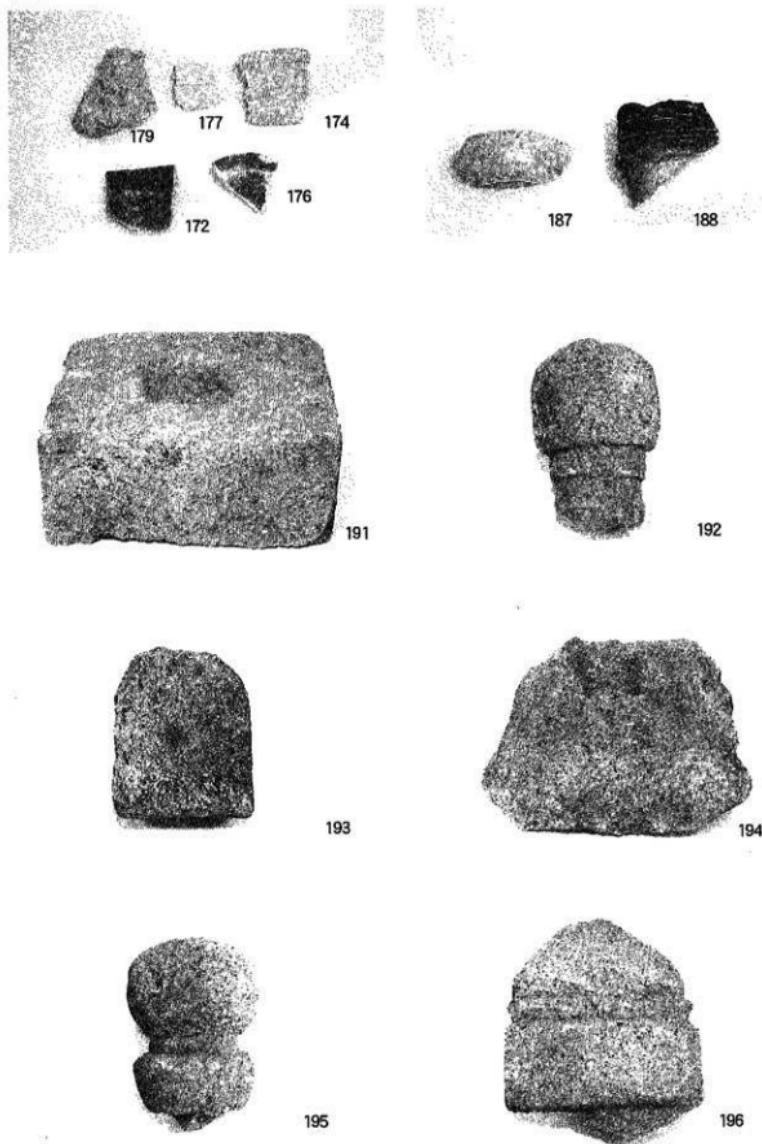


157



170

図版 13



報告書抄録

ふりがな	いしどういりいせき							
書名	石堂池遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第28集							
編著者名	花崎徹							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	大分県中津市農田町14-3							
発行年月日	2003年2月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石堂池遺跡	大分県中津市 大字下池永942番地 他	44203	10119	33° 34' 54"	131° 13' 25"	001024 ~ 010219	3,200 m ²	農業開墾事業 溜池整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石堂池遺跡	居館	中世 近世	土塁、塙 地下式土塼	土師質土器 陶磁器 瓦質土器	二重の塙で区画される居館			

石堂池遺跡

・中津市文化財調査報告 第28集

2003年2月28日

発行 中津市教育委員会

印刷 第一印刷株式会社